

## 第2回 福井県こども・子育て応援会議

### 次 第

日 時：令和6年11月20日（水）

13：30～15：30

場 所：福井県庁 正庁（地下1階）

（Teams 併用）

#### 1 開 会

#### 2 議 事

（1）「福井県こども・子育て応援計画」骨子案について

（2）意見交換

#### 3 事務連絡

#### 4 閉 会

#### ○配布資料

【資 料 1】第1回会議および分科会（こども応援・子育て応援）での意見・提案

【資 料 2】「福井県こども・子育て応援計画」骨子案

【資 料 3】欠席委員からのコメント

【参考資料1】「福井県こども・子育て応援計画」骨子案の検討過程

【参考資料2】ヤングケアラーに関する調査結果

【参考資料3】「ふく育県」のイメージ定着に向けた情報発信、機運醸成について

第2回 福井県こども・子育て応援会議 委員名簿

【委員】

(備考)

仁愛大学 人間生活学部 子ども教育学科 教授	石川 昭義	
福井県私立幼稚園・認定こども園協会 会長	徳本 達之	
福井県民間保育連盟 副会長	菅原 崇	委員代理
中学校長会（清水中学校 校長）	牧田 菊子	こども応援分科会 委員
平谷こども発達クリニック 院長	平谷 美智夫	
越前市「みんなの食堂」実行委員会 代表	野尻 富美	
公益財団法人 青少年育成福井県民会議 会長	田村 洋子	
NPO法人 わくわくくらぶ 理事長	芝 美代子	
ふくい移住サポーター	野尻 知子	
地域の縁結びさん	大野 三和	
株式会社 日本エー・エム・シー 取締役 専務執行役員 総務部 部長	高橋 永	子育て応援分科会 委員

【アドバイザー】

東京大学 大学院経済学研究科 教授	山口 慎太郎	オンライン
-------------------	--------	-------

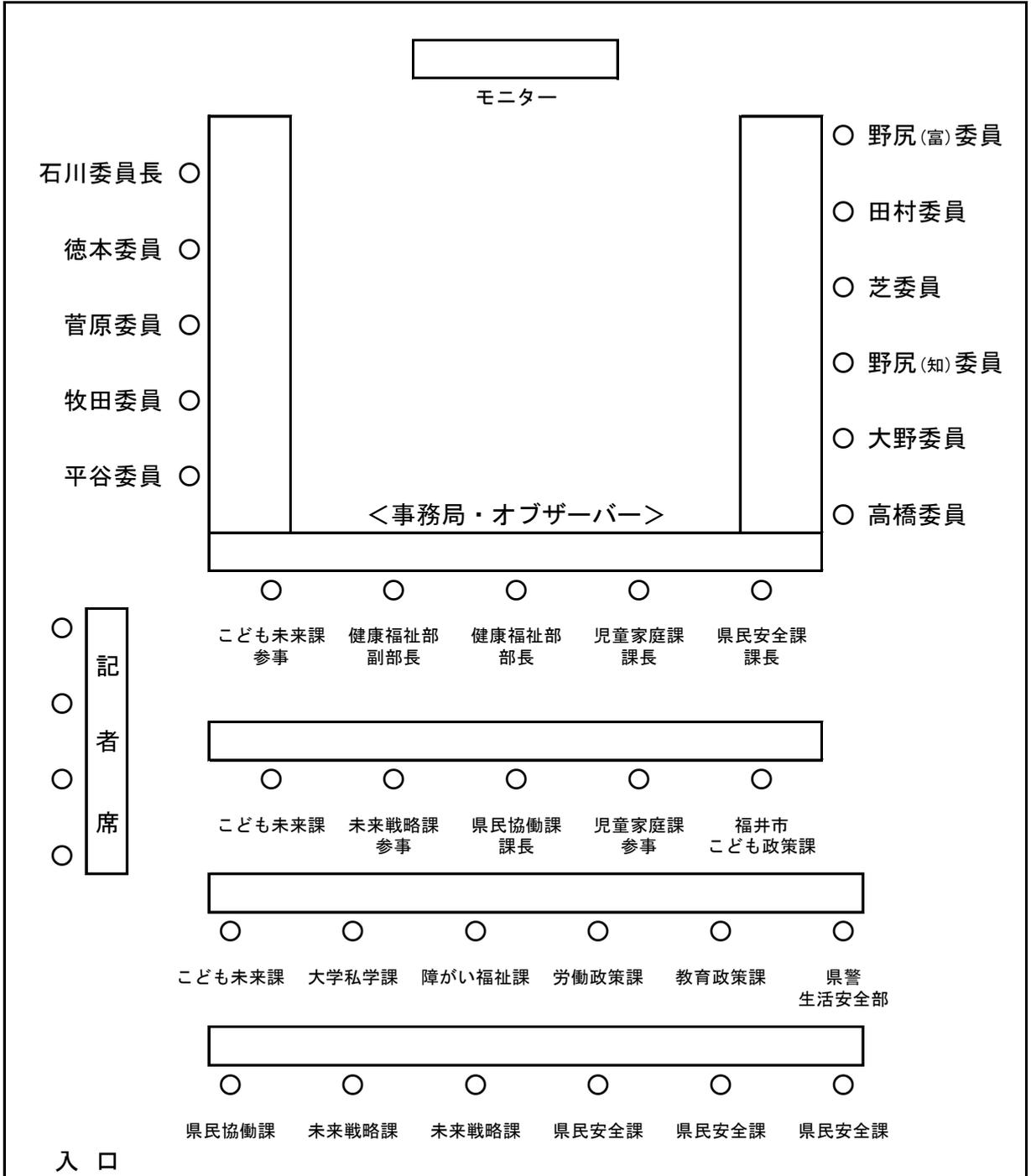
(敬称略、順不同)

# 第2回 福井県子ども・子育て応援会議 配席図

日時：令和6年11月20日（水）

13:30～15:30

会場：福井県庁地下1階 正庁



# 第1回こども・子育て応援会議での主な意見

## 第1回こども・子育て応援会議 (R6.6.12)

- 学校やその他の場面においても、こどもや若者の声を政策に反映していくことは大事
- 子育てについて義務や責任と感じている人が多い。子育ての喜びや毎日の生きがいなど、こどもを通して大人自身が学ぶようなポジティブイメージの発信も大事
- 施策の周知について、届けるべき人にしっかり届けることが重要
- 子育て中の当事者で、保育士になりたいという方がいた。集中講義などをして保育士志望の方を応援してほしい
- ふく育さんやふく育タクシーなど県の事業をどんなことで使っていいのかが分かりにくい。些細なことでも使えるというメッセージでどんどん事例を出してほしい
- 女性活躍だけでなく男性の家庭進出応援や、男性に対する啓発活動などもしていくべき
- 未婚の方や、これからこどもを持つとうとしている方に、子育て支援のボランティアに関わっていただくなどして、子育ての楽しさを味わってもらうとよい
- 本計画が、こどものための計画になるとともに、社会全体につながるような包摂的、包括的な計画になるとよい
- 子育て中の人の中には、住んでいる地域の諸団体に何も属していない方も多。地域の中で、社会みんなでこどもを育てていこうと捉えたときに、そういった方に対する支援も必要
- 医療的ケア児の一つの居場所として受け入れをしている施設同士が情報交換できる場所があるとよい。もっと横のつながりを強くしていけば、社会で楽しむ子育てにつながると思う
- 女性活躍や、結婚、子育てのイメージアップと推進については、県のトップから分かりやすく具体的な言葉でメッセージを発信することが効果的



第1回こども・子育て応援会議の様子

# 分科会(こども応援・子育て応援)での主な提案

## I こども応援分科会 (R6. 7. 30/R6. 9. 25)

- こどもたちが素直な意見を伝えることができる仕組みとして**意見聴取の取組は非常に重要**。今後も継続的に実施すべき
- 一方で、なかなか若者の意見が通らない実情もある。**多角的に分析する力や、自分の考えについて根拠を持って主張できる力**を育てることが大事
- 障がいの有無などに関わらず、あらゆる環境に置かれた**こどもたちが自由につながれる場所や機会**が、小規模でもたくさんあるとよい  
(学年や学校を超えた交流や、地域の人たちとのつながりの中で、こども自身がより主体的に取り組む活動そのものが居場所になる)
- こどもの居場所や親同士のつながり**になるような安心感のある場所や企画を、県が応援するような仕組みがあるとよい
- 地区の育成会や公民館**が実施する、親子が参加可能な企画を応援し、もっと多くの人に参加できるとよい
- 昔のような時代にはなかなか戻れないが、こどもはやはり地域で育てられるべき。**先生や保育者以外の大人が関われるような場面や環境**があるとよい
- 自分からなかなか情報をつかみにいけない人や本当に支援を求めている人に、**情報がしっかり届く周知方法**が必要
- こどもに寄り添うことはもちろん大事だが、こどもだけでなく**親の支援もセット**で考えていくべき
- こどもが生まれた直後から、こどもを社会全体で見守れる体制を整えることで、**県外に出てもいつか帰ってきたい**と思えるのではないかと
- 情報を多様なツールで収集可能となった現代だからこそ、**支援が必要なこどもたちへのリーチ**が難しくなっている。情報格差への対応が必要



第1回こども応援分科会の様子



第2回こども応援分科会の様子

# 分科会(こども応援・子育て応援)での主な提案

## II 子育て応援分科会 (R6.8.19/R6.10.16)

- こどもの意見**から新しい気づきも多かった。テーマを絞るなどして継続して実施してほしい
- 大きなことでなくても**こどもがチャレンジ**でき、自らの可能性を発見できる学びや遊びなど活動の場を整備していくべき
- こどもの習い事**など、家庭の外で教育を受けることは非常に大事。こどもが自分の打ち込めるものを持つための環境整備が必要
- 行政や教育機関の連携による**安定的な保育人材の確保**は重要。一方で保育や教育の現場に社会的要求が集中しており、**家庭や地域に分散できるような仕組みづくり**が必要
- 放課後児童クラブやこどもの居場所などで様々な知見をもったシニア層が活躍するなど、**子育てに関わる担い手の拡大**を進めるべき
- こどもたちの放課後や家庭での時間の過ごし方が多様化している。**家庭の教育力の差**が子育てやこどもの成長に影響する時代になっているため、その差をいかに埋めていくかの視点が大事
- こどもが将来に希望をもち、**夢を育むきっかけとなる機会や場所**を身近に設定できるとよい  
(同時に、夢を目指すプロセスで困難に直面したときに支えサポートする教育者や大人の役割も重要)
- 不妊治療から産後うつ**のケア、気がかりな親が地域に出たときの繋ぎのケアが大事
- 経済的支援も充実してきているが、ひとり親家庭など特に情報が届いてほしい層に届いていない実態もある。知人や地域の人などのルートも含め、**情報がしっかり届く社会**になってほしい
- 男性育休のみならず、祖父母育休など両立支援に関するニーズは多様化している。**子育てを強力に支援する企業を評価するような仕組み**をさらに手厚く進めてほしい
- 男性がもっと家庭に入っていける家庭のありかたを目指すべき。**男性はやらないのではなくやり方が分からないだけ。そのあたりのサポートが重要**
- 両立支援や共家事を進める際に、**行政や企業のトップのメッセージ**は効果が大きく大変重要



第1回子育て応援分科会の様子



第2回子育て応援分科会の様子

## 1 概要

子育ての幸せや楽しさが実感できる社会の実現に向け、子育て当事者に加えて、新たに子ども・若者からの意見等も踏まえ、「福井県子ども・子育て応援計画」を策定

## 2 位置づけ

- ・子ども基本法に基づく都道府県子ども計画であり、以下の計画も兼ねる
  - ・子ども・若者育成支援推進法に基づく都道府県子ども・若者計画（子供・若者の健全育成、成長応援等）
  - ・子ども・子育て支援法に基づく都道府県子ども・子育て支援事業支援計画（教育・保育給付、支援体制整備等）
  - ・次世代育成支援対策推進法に基づく都道府県行動計画（結婚支援、仕事と子育ての両立等）
  - ・成育医療等基本法に基づく成育医療等に関する計画（母子保健、医療・保健・教育・福祉等の連携体制等）
  - ・子どもの貧困解消法に基づく都道府県計画（修学支援、生活支援、支援体制整備等）
- ・福井県長期ビジョンの分野別計画

## 3 これまでの取り組み

家庭や地域のつながりを大切にする福井らしい地域基盤をベースに、預かり施設などの充実、保育料・高校授業料無償化等の拡充をはじめとする本県独自かつ全国トップクラスの子育て施策の展開により、子育て環境の充実化が進んでいる。

- ・待機児童ゼロの継続
- ・男性育休取得率の向上（R5:31.4%）

## 4 現状と主な課題

- (1) 家庭における支え合いの力が低下してきている。
- ・3世代同居率が年々低下 H22：17.6% → R2：11.5% (国勢調査)
  - ・1ターン世帯含めた核家族世帯が増加 R1：51.4% → R6：56.3% (R1結婚・子育てニーズ調査/R6子ども・子育て調査の結果)
  - ・高齢者有業率の上昇 H29：27.8% → R4：30.9% (総務省「就業構造基本調査」)
- (2) 子育てや子どもをもつことに関して希望するライフコースを歩めていない人が増えている。
- ・20～40代の理想のこどもの数 2人：47%、3人：37% (R5子育て意識調査の結果)
  - ・合計特殊出生率 R1：1.56 → R5：1.46
  - (子育てにあたっての負担・不安に思うこと)
    - ①仕事と子育ての両立：41.0%
    - ②身体の負担：39.8%
    - ③自由時間がない：37.0%
    - ④経済的な負担：34.9%
 (R6子ども・子育て調査の結果)
  - (子育てへのイメージ)
    - ・子育てのイメージは「楽しみや喜び」 全体：44.2%、18～20歳代：34.7%
    - 「義務や責任」 全体：27.6%、18～20歳代：31.0%
 (R5県民アンケートの結果)
  - ・20代30代の若者の69.4%は結婚意欲があるが、67.6%は交際相手がない/28.5%は交際経験がない (R6子ども・子育て調査の結果)
- (3) 本県がこれまでに進めてきた子育て施策に対して評価していない/無関心層が約3割。また、施策そのものの認知度が低い。
- ・本県の子育て施策を評価していない・どちらでもない：27.2% (R5県民アンケートの結果)
  - ・本県の独自施策14のうち、県民の半数以上が認知していた施策は3つのみ (R5子育て意識調査の結果)

## 5 策定コンセプト〔新たな観点〕

“子ども・若者に寄り添う視点”で「ふく育県」をリデザイン

- 【リデザインの視点】
- あらゆる環境に置かれた当事者が利用／参画できる仕組みになっているか〔包括目線〕
  - 利用者にとって分かりやすく利用しやすい制度になっているか〔利用者目線〕
  - 将来の当事者にも訴求できる内容になっているか〔将来目線〕

【策定プロセス】 県民約 12,000 人（うち約 6 割が子ども・若者）に意見聴取

聴取手法	聴取人数
子ども・若者、子育て世帯、未婚者へのニーズ調査	2,008人
子育て世帯、未婚者への子育て意識調査	1,606人
小中高生・若者へのWebアンケート	4,952人
小中学生とその親への子どもの生活状況実態調査	3,435人
多様な立場や環境の子育て世帯等との意見交換	72人
様々な環境の子ども・若者とのワークショップ	294人
子ども・子育て応援会議（分科会含む）	26人

## 6 目指す姿の方向性

### 《課題を踏まえた検討の観点》

- 様々な家庭環境に応じたサポートや情報発信の充実により、必要な支援が確実に届く体制づくりが必要
- 若い世代が将来に夢を見だし、多様な一人ひとりの結婚や出産・子育ての希望が叶う社会環境づくりが必要
- 子どもをもつことや福井で子育てすることの前向きなイメージを、将来に向けて社会全体で共有できる仕組みづくりが必要

### 《子ども・若者の主な意見》

- 私にはお父さんがいない。お母さんが一人で家のことをやっていて大変・・・  
誰かの居場所を増やす活動をしたい！  
障がいについてもっと学びたい！
- 子どもが自らの可能性を発見できる活動の場を応援してほしい！  
交際相手はほしいけど活動方法が分からない・・・
- 乳幼児との触れ合いなどの機会がもっとあると良い！  
たくさんのすてきな子育てイベントがあるけどどれも単発でもったいない・・・

### 《目指す姿の方向性》

- 一人ひとりに寄り添い、誰も取り残されない  
**安心感**のある社会
- 一人ひとりの夢が叶い、幸せを実感できる**希望**をもてる社会
- 子育ての“よろこび”が育まれ、広がり、**共感**し合う社会

# 「福井県こども・子育て応援計画」 骨子案（概要）

## 1 趣旨

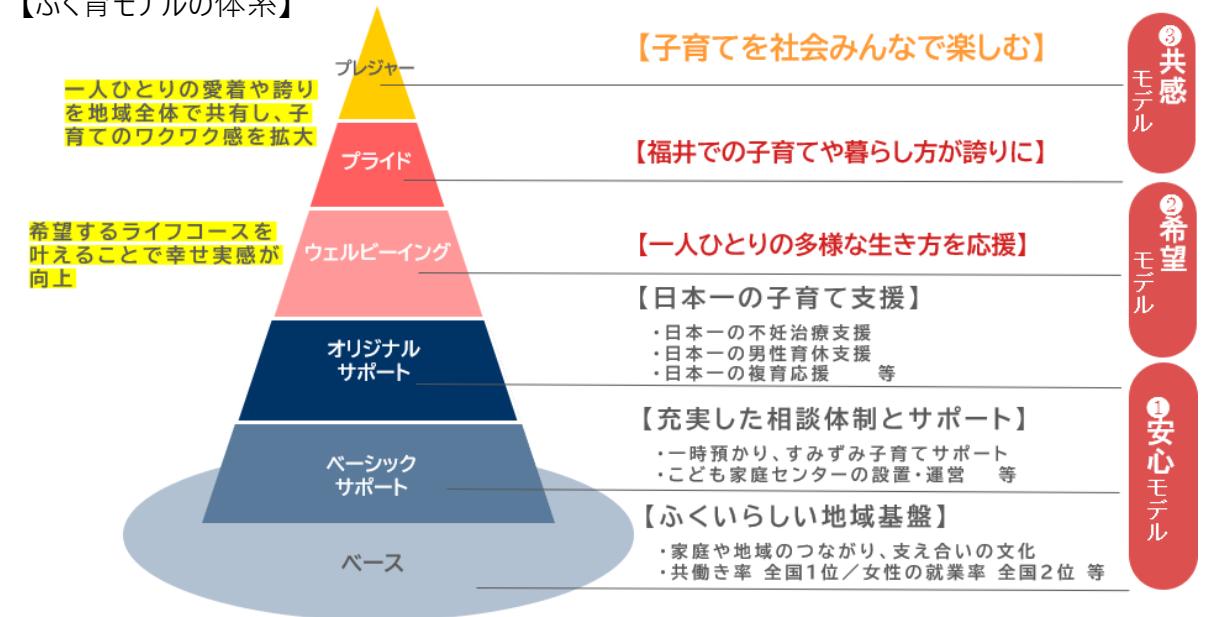
子育ての幸せや楽しさが実感できる社会の実現に向け、全てのこども・若者の社会参画や権利擁護を図りながら、子育て当事者も含めて一人ひとりの多様な夢や希望を社会全体で応援する風土を醸成し、支援団体や関係機関、市町等と協働して、こども・子育て施策を総合的に推進する。

2 計画期間 令和7年度から令和11年度（5年間）

## 3 基本理念

こども・子育ての“よろこび”を  
次世代につなぐ「ふく育県」へ

【ふく育モデルの体系】



4 政策モデルと最重点プロジェクト 一人ひとりの安心と希望を追求し、共感を広げていく \ 3つの「ふく育モデル」 /

### I ふく育安心モデル

一人ひとりに寄り添い、誰も取り残されない社会

#### 【最重点プロジェクト】

##### ■ こどもの安全・安心を確保

- ひとり親や多胎児、医療的ケアなど様々な家庭環境におかれたこども・若者に寄り添った支援
- 安心できる多様な居場所づくりへの支援

##### ■ 安心の子育て環境を確保

- 保育人材確保と教育・保育の質の向上
- 様々な子育て世帯をサポートする「ふく育さん」・「ふく育タクシー」の利用支援や「すみずみ子育てサポート事業」の充実
- 産後訪問やこども食堂を介した見守り活動など、アウトリーチ型支援の実施
- 必要な情報を適切なタイミングで届ける仕組みづくり

### II ふく育希望モデル

一人ひとりの夢や希望が叶い、幸せを実感できる社会

#### 【最重点プロジェクト】

##### ■ こども・若者の夢や希望を応援

- 親および子に向けた恋愛・結婚に関する啓発や、ニーズに合わせた出会いの拡大
- こども・若者や子育て世代への伴走的な支援に取り組む団体への応援

##### ■ こども・子育ての幸せ実感を実現

- プレコンセプションケアからスタートする「ゆりかごから巣立ちまで」の切れ目ない支援の推進

### III ふく育共感モデル

子育ての“よろこび”が育まれ、広がっていく社会

#### 【最重点プロジェクト】

##### ■ 社会全体でこども・子育てを応援

- 市民主体のこども・子育て応援イベントのつながりや情報発信の応援
- 時短勤務や男性育休など多様な働き方の拡大により、誰もが仕事と家庭を両立できる社会の実現
- こども・若者目線での政策形成機運の醸成

##### ■ 子育てのワクワク感を増大

- こどもたちがいつでも楽しめる全天候型遊び場を全市町で整備
- 福井県児童科学館の「ふく育県」シンボルとしてのあり方を検討

# 〔参考〕「福井県こども・子育て応援計画」(R7～R11) 骨子案

## 1 趣 旨

子育ての幸せや楽しさが実感できる社会の実現に向け、全てのこども・若者の社会参画や権利擁護を図りながら、子育て当事者も含めて一人ひとりの多様な夢や希望を社会全体で応援する風土を醸成し、支援団体や関係機関、市町等と協働して、こども・子育て施策を総合的に推進する。

## 2 基本理念

### こども・子育ての“よろこび”を次世代につなぐ「ふく育県」へ

家庭や地域のつながりを大切にす福井らしい子育て環境を基盤とし、こども・若者や子育て世代一人ひとりの多様な夢や希望が叶う社会の実現を図ることにより、社会全体でこどもの“よろこび”・子育ての“よろこび”を分かち合い、次世代につないでいく「ふく育県」を目指す

## 3 目指す姿と施策の方向性

●重点的に取り組む施策 ○主に取り組む施策 ★こどもの意見反映

### I 一人ひとりに寄り添い、誰も取り残されない「ふく育安心モデル」の実現

あらゆる環境におかれたこどもや若者が取り残されないきめ細かな支援を実施し、分野を超えて互いを理解、尊重し合う社会を目指す

#### I-1 こどもの安全・安心を確保

##### 【こども・若者主体の社会づくり】

- こどもの教育・養育の現場におけるこどもの権利等に関する理解促進と意見聴取の推進
- 誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの推進
- ★○こどもの安全安心のための見守り活動の推進 など

##### 【一人ひとりの環境に寄り添った支援の充実】

- ★●養育に困難を抱える家庭に対する支援（訪問支援、通所支援、短期入所等）の充実
- ★●ヤングケアラーや生きづらさを抱えたときに集える相談・居場所拠点の確保
- 生活困窮世帯やひとり親家庭児童への学習・生活支援の充実
- ★○親を頼れないこどもたちの家庭的で安定した生活環境の場の確保
- ★●入所児童の退所後を見据えた自立支援と退所後も支え合えるネットワークの構築
- ★○青少年の非行防止活動と有害環境対策などによる健全育成の推進 など

##### 【こどもを支える体制の強化と分野を超えた連携】

- ★●家庭でも学校でもない安心できる多様な居場所づくりへの支援
- ひとり親、多胎児、発達障がいや医療的ケアなど様々な家庭環境に応じた支援の充実
- 児童相談所、市町、施設等こどもに関わる支援者の研修・交流拠点の設置
- ★○介護、障がい、子育て、生活困窮などの支援機関が連携した協働支援体制の構築
- 外国にルーツを持つ児童生徒等に対する生活支援や相談体制の強化 など

#### I-2 安心の子育て環境を確保

##### 【子育てのサポート体制を充実】

- 様々な子育てのニーズをサポートする「ふく育さん」・「ふく育タクシー」の利用支援
- 一時預かりや子育て世帯の家事支援を行う「すみずみ子育てサポート事業」の充実
- ★○「放課後児童クラブ」の人材確保や事業運営を支援し、安心・安全な活動環境を実現
- 母子保健・児童福祉の一体的相談支援を担う「こども家庭センター」の活用
- こども食堂等と連携したアウトリーチ型の見守り体制の構築
- 待機児童ゼロを維持するための保育人材確保と教育・保育の質の向上
- 就労要件を問わず柔軟に利用できる新たな通園制度の実施
- こどもの豊かな育ちを支える保育者の仕事魅力発信 など

##### 【当事者に確実に届く情報発信】

- 子育て支援策や母子保健等に関する情報の集約・発信アプリなど子育て支援DXの推進
- ★●施策の利用シーンなどを分かりやすく伝える当事者目線での広報展開 など

### II 一人ひとりの夢や希望が叶い、幸せを実感できる「ふく育希望モデル」の実現

一人ひとりの夢や希望を応援する風土を醸成し、こどもをもつことや子育ての幸せを実感できる社会を目指す

#### II-1 こども・若者の夢や希望を応援

##### 【人生の希望を叶える社会づくり】

- ★●自分の将来や生き方を考える機会を広く提供する「ライフデザイン教育」の推進
- ★○地域の特性を活かした体験学習や職業教育の充実
- ★●こども・若者が将来への夢や希望を見いだす活動を応援
- 自己の適正と能力に応じた職業能力開発の機会確保と就労支援
- ★●若者の恋愛機運の醸成・出会いの機会の拡充 など

#### II-2 こども・子育ての幸せ実感を実現

##### 【「ゆりかごから巣立ちまで」切れ目のない支援の実現】

- プレコンセプションケア（若い世代が将来を考え日々の生活や健康に向き合うこと）の実施
- 日本一の不妊治療支援、市町や関係機関と連携した産後ケアの充実
- ★○保育料無償化や高校・大学の授業料支援等による日本一の“複育”応援 など

### III 子育ての“よろこび”が育まれ、さらに広がっていく「ふく育共感モデル」の実現

子育てを応援する福井への愛着が地域全体に浸透し、こどもをもつことや子育てのよろこびが大きく育まれ、共感し合う社会を目指す

#### III-1 社会全体でこども・子育てを応援

##### 【シームレスなこども・子育て応援社会づくり】

- ★○地域の様々な主体が参加する見守りネットワークの構築
- 民生・児童委員やアクティブシニア層、外国人県民など地域の担い手による活動支援
- ★●男性育休が当たり前となり、誰もが仕事と家庭を両立できる社会づくり
- ★●時短勤務やテレワークなど、多様な働き方を実践する社員ファースト企業の拡大
- 企業等と行政が連携し、社会全体で子育て世帯を応援する環境づくり
- 「こども・若者政策マインド」（仮称）を策定し、こども・若者目線での政策立案・実行を強化 など

#### III-2 子育てのワクワク感を増大

##### 【家族で子育てを楽しむ風土づくり】

- ★●天候にかかわらずこどもたちがいつでも楽しめる全天候型遊び場整備の推進
- ★○夫婦や家族で家事・育児を楽しむ「共家事」の普及拡大
- ★○親子のふれあいや親学びを通して家庭の教育力向上を支援 など

##### 【子育てへのポジティブなイメージづくり】

- こども・子育てへの前向きなイメージを醸成するポジティブキャンペーンの展開
- ★●市民主体の“ふく育”イベントをつなぐ情報発信の応援
- ★●福井県児童科学館の「ふく育県」シンボルとしてのあり方を検討
- ★●小・中・高校生を対象に乳幼児と触れ合う機会を創出 など

1. 福井県子育て意識調査結果(令和5年度)
2. 福井県こども・子育てニーズ調査結果(令和6年度)
3. こども・若者の意見聴取 とりまとめ結果(令和6年度)

# 福井県子育て意識調査概要

- 目 的

現在行っている少子化・子育て支援策に対する県民の評価を調査することで、長期的な視点での政策評価を行う  
 また、合計特殊出生率が全国地に比べて高い2つの県(島根県、宮崎県)や低い2つの県(秋田県、奈良県)との比較により、本県の独自性や相違点を把握する
- 対 象

令和5年11月1日現在、20～40代の男女  
 福井県在住 4,000人  
 秋田県在住 750人 、 奈良県在住 750人  
 島根県在住 750人 、 宮崎県在住 750人
- 期 間

令和5年11月～令和6年1月

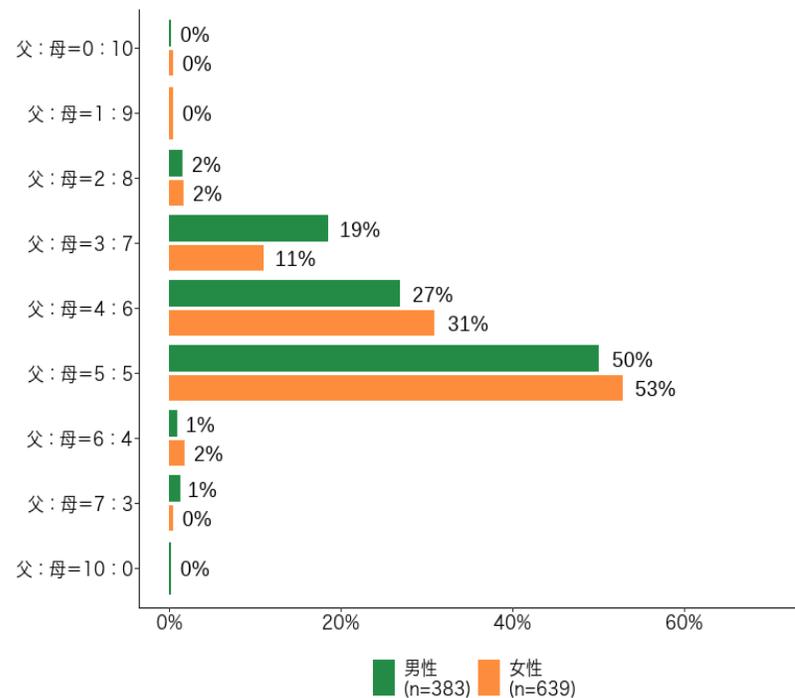
■ 有効回答数

調査対象	調査数	回答数	回答率
福井県	4,000	1,606	40.2%
秋田県	750	203	27.1%
奈良県	750	171	22.8%
島根県	750	198	26.4%
宮崎県	750	160	21.3%

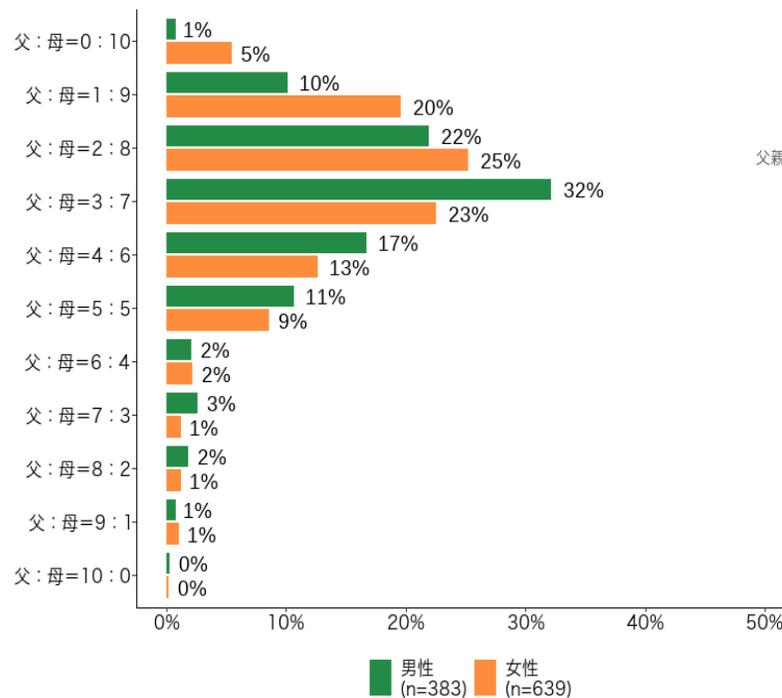
# 家事育児の分担

- 5割以上の方が**平等(5:5)な家事育児分担を理想**としているが、実際は、女性のほうが負担が多いケースが8割以上。(5:5を実現できているケースは約1割)
- 理想の家事育児分担を実現するには、**労働環境の整備と職場の理解促進**が必要不可欠。

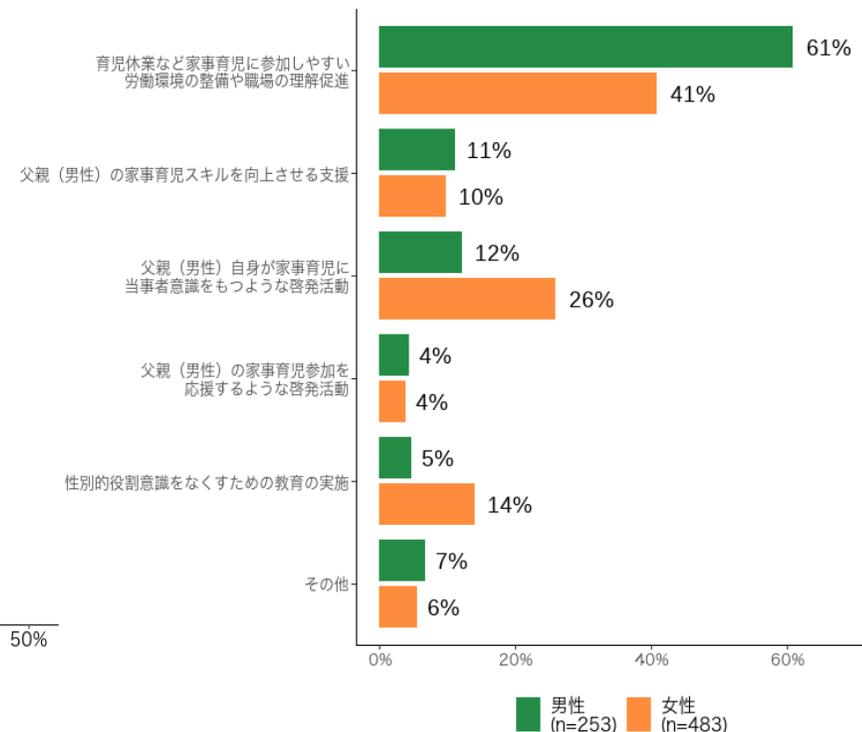
問〔配偶者がいると回答した方〕父親と母親の家事育児への理想の関わり具合



問〔配偶者がいると回答した方〕父親と母親の家事育児への実際の関わり具合



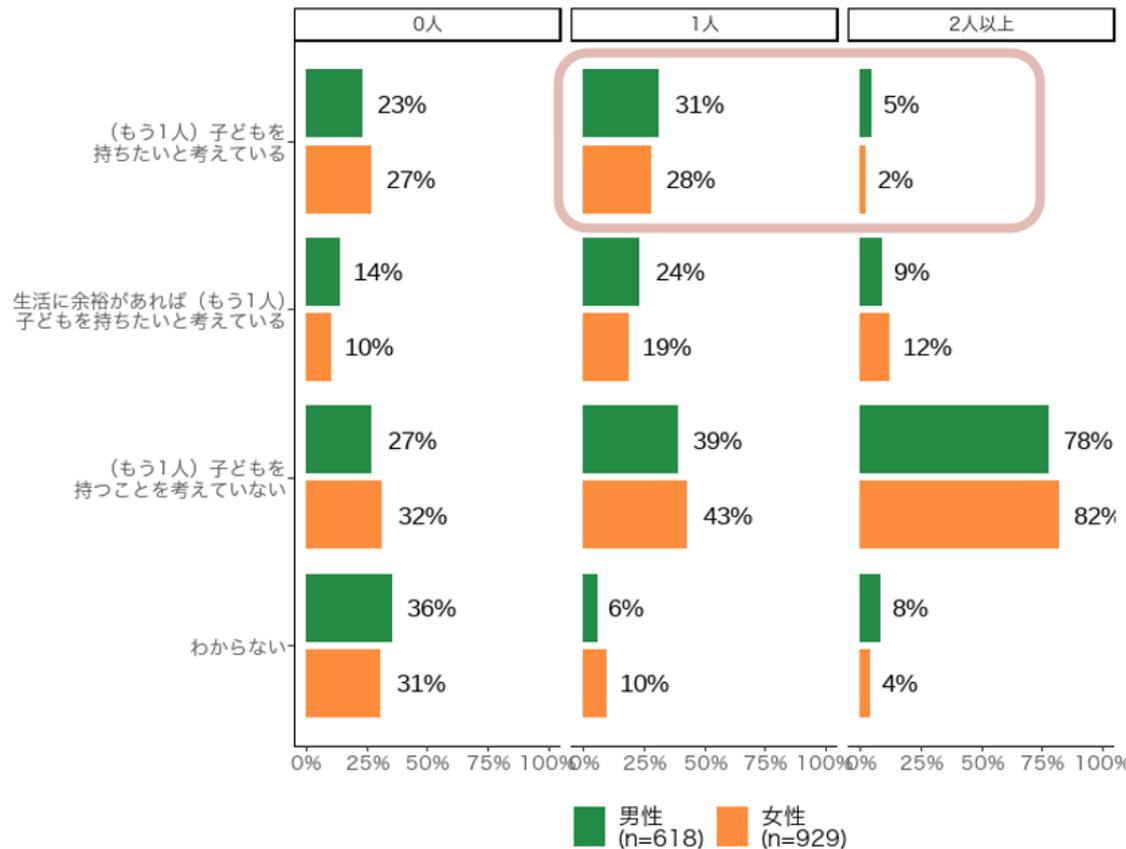
問〔父親の実際の関わり具合が理想の関わり具合より低い方〕理想の家事育児の関わり具合を実現するために必要だと思うこと



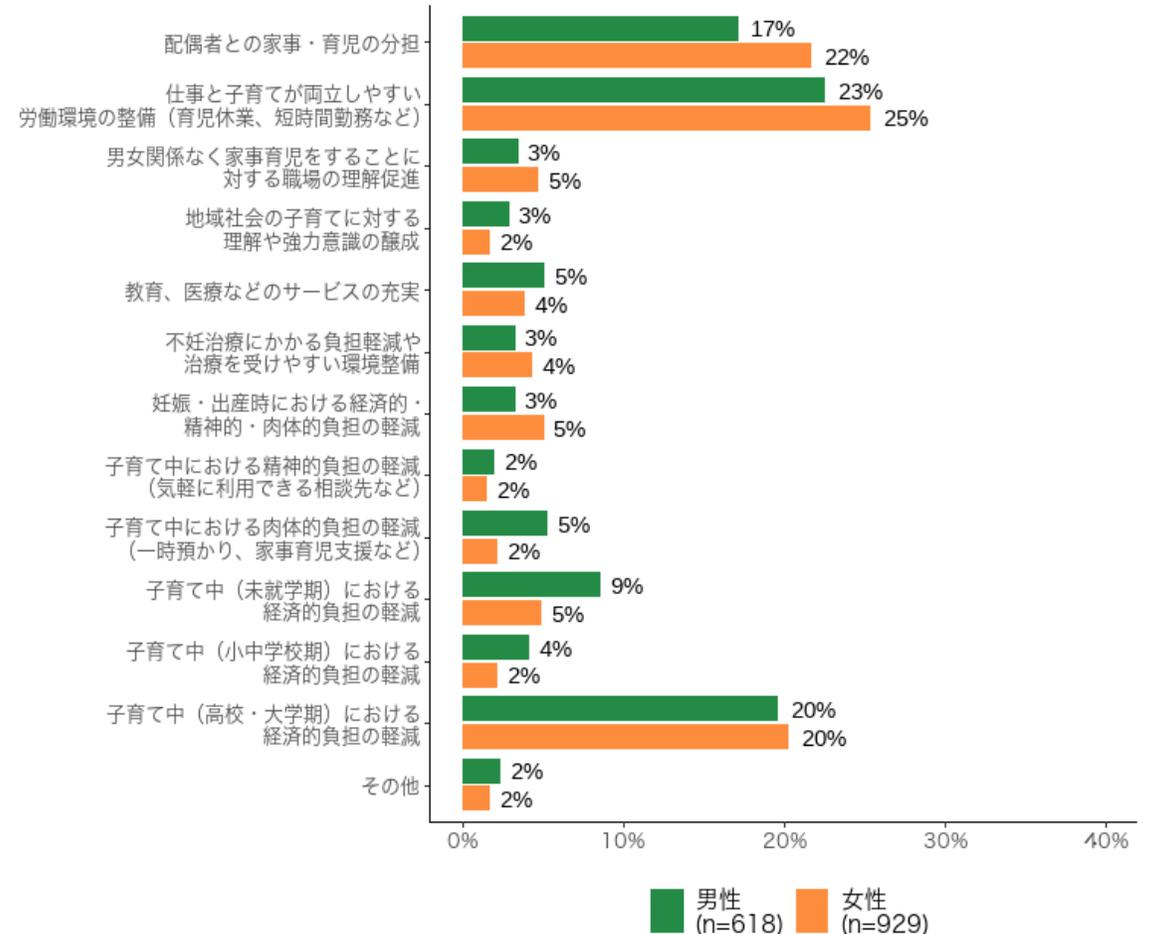
# 理想の子の数の実現に向けて希望すること

- 現在子どもを既に持っており、「もう1人子どもを持ちたいと考えている」人は3割以上
- 理想の子の数の実現に向けて、仕事と子育てを両立しやすい環境や家事・育児の適切な分担を求める意見が多い。(特に女性にその意見が多い。)

問 今後3年以内に子どもを持ちたいと考えているか(すでにお子さんがある方はもう1人持ちたいと考えているか)



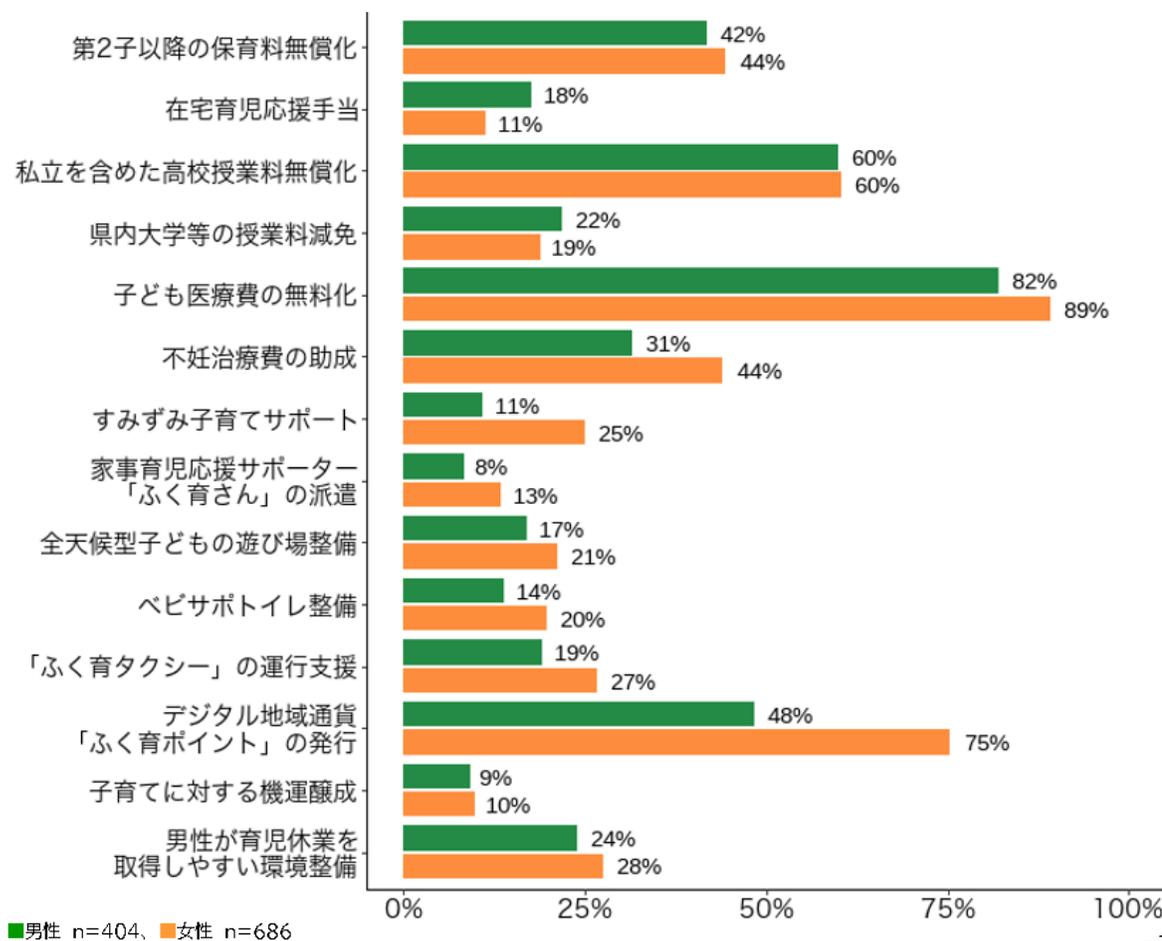
問 理想とする子どもの数を実現するために必要だと思うこと(1位)



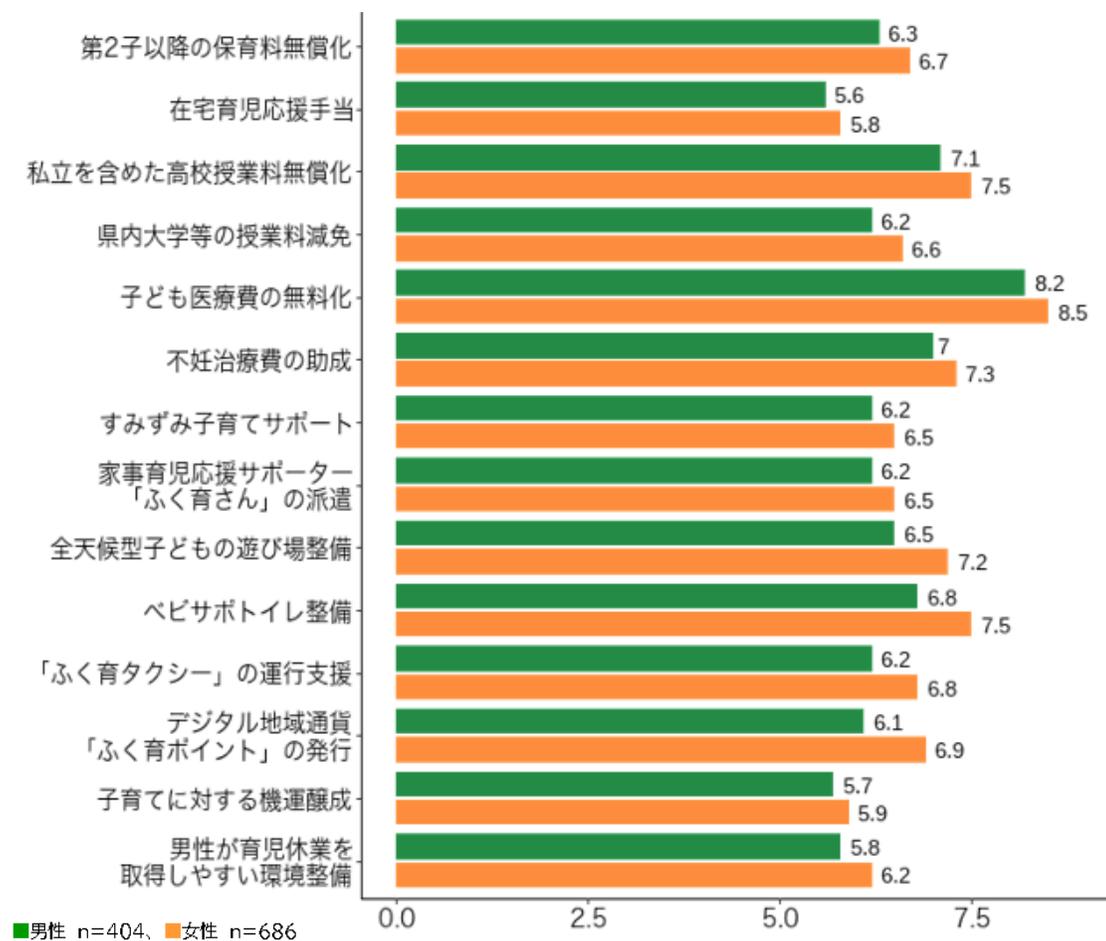
# 県の施策の認知度と評価

- 14の独自施策のうち、認知度が5割を超えているのは3つ。経済的支援策については認知度が高め。
- 一方、全ての施策で満足度の平均値は約6以上と、子育て支援策に対する一定の評価は得られている。

問〔配偶者がいるまたは子どもがいると回答した方〕福井県が独自に実施している子育て支援策の認知度



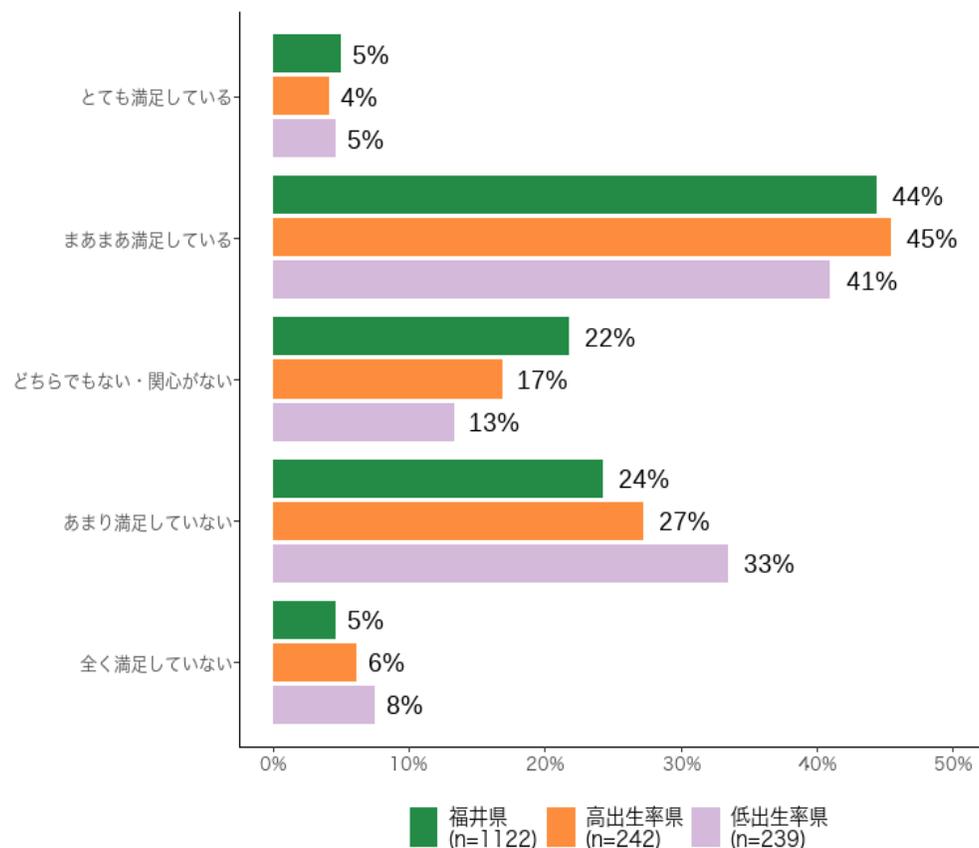
問〔配偶者がいるまたは子どもがいると回答した方〕福井県が独自に実施している子育て支援策の制度に対する評価



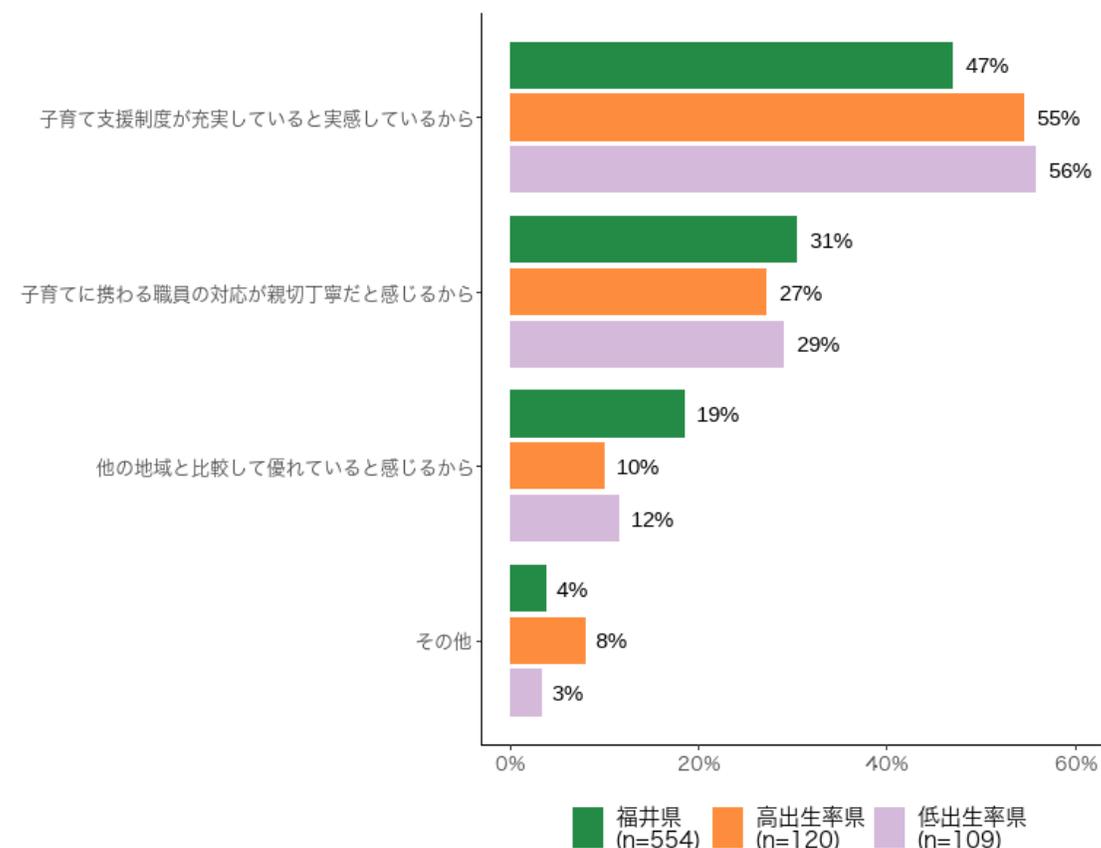
# 子育て支援策への満足度

- 子育て支援策への満足度について、福井県は「どちらでもない・関心がない」の割合が高く(2割以上)、満足していない割合は低出生率県が最も高い。
- 一方で、満足している人については、「他地域と比較して優れていると感じている」割合が高い。

問 〔配偶者がいるまたは子どもがいると回答した方〕居住している地域(県全体)の行政による子育て支援に満足しているか



問 〔前問で満足していると回答した方〕満足していると回答した理由



欠損値：福井県に69ケース; 高出生率県に21ケース; 低出生率県に23ケース

## 福井県子ども・子育てニーズ調査概要

- 目的 県内の子ども・若者や子育て世帯、未婚者を対象に、子どもや子育て当事者のおかれている現状、ニーズ等を把握する
- 対象 ①子ども(小学校5年生～高校3年生)  
②若者(19～30歳未満)  
③保護者(未就学児～高校生の親)  
④未婚者(20～40歳未満)
- 期間 令和6年5月7日～5月21日
- 有効回答数 2,008人(有効回答率 22.1%)

(回答内訳)

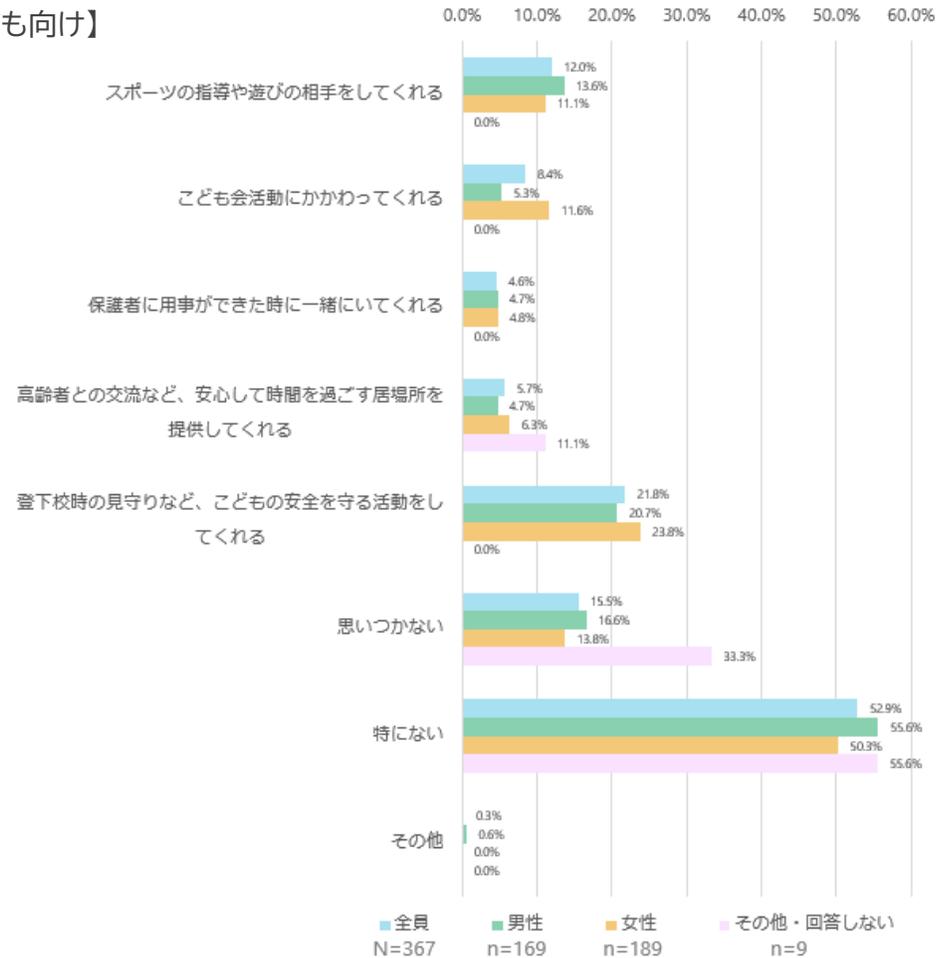
調査対象	調査数	回答数	回答率
子ども	1,500	367	24.5%
若者	1,000	175	17.5%
保護者	3,600	979	27.2%
未婚者	3,000	487	16.2%
合計	9,100	2,008	22.1%

# 近所や地域の人とのかかわり

- 近所や地域の人に期待することについて、子ども目線では「おもいつかない」「特にない」が多くを占めている。
- 一方、保護者からは、「**子どもの安全を守る活動**」、「**地域ぐるみでのかかわり**」を期待する回答が多い。

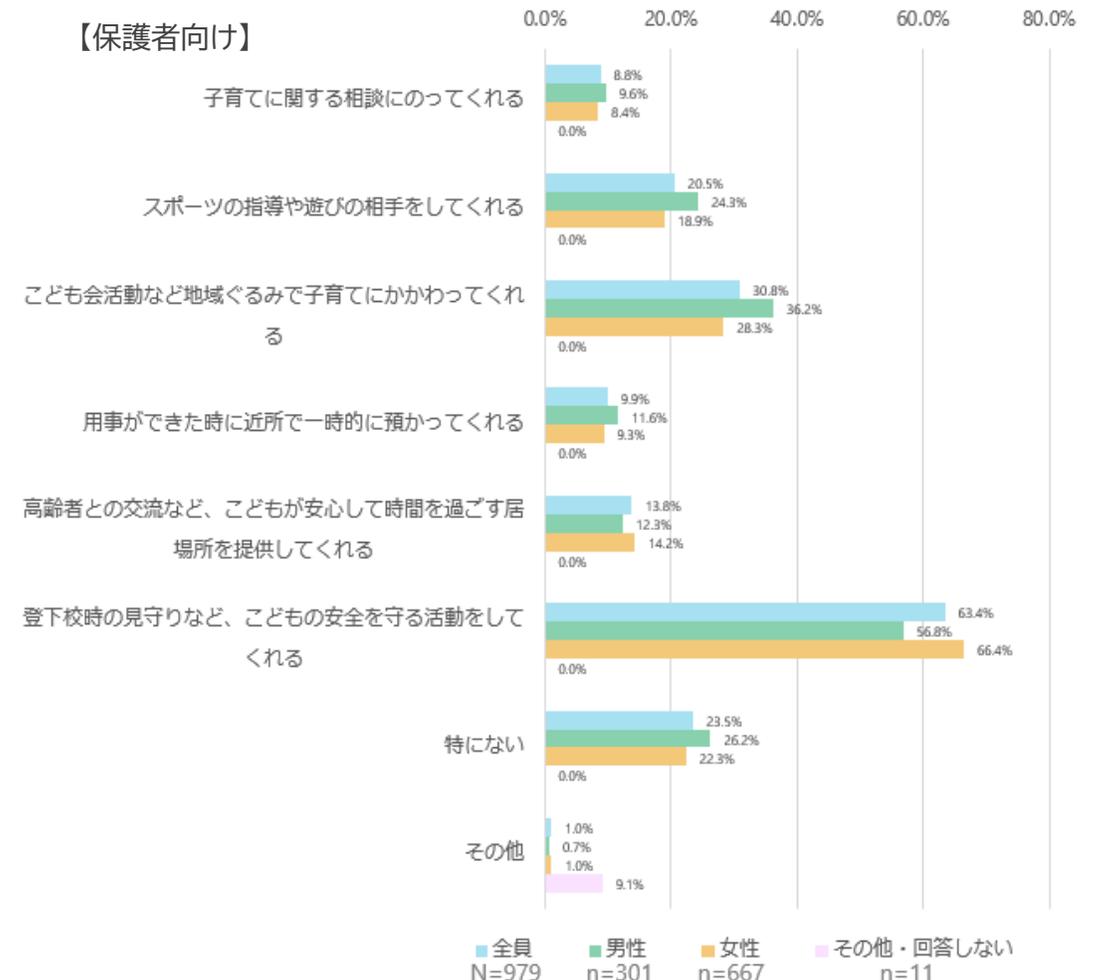
問 普段の生活の中で、近所や地域の人にどのようなことをしてほしいと思いますか。  
(複数回答、3つまで)

【子ども向け】



問 子育てをする上で、近所や地域の人に実際にどのようなことをしてほしいと期待しますか。  
(複数回答、3つまで)

【保護者向け】



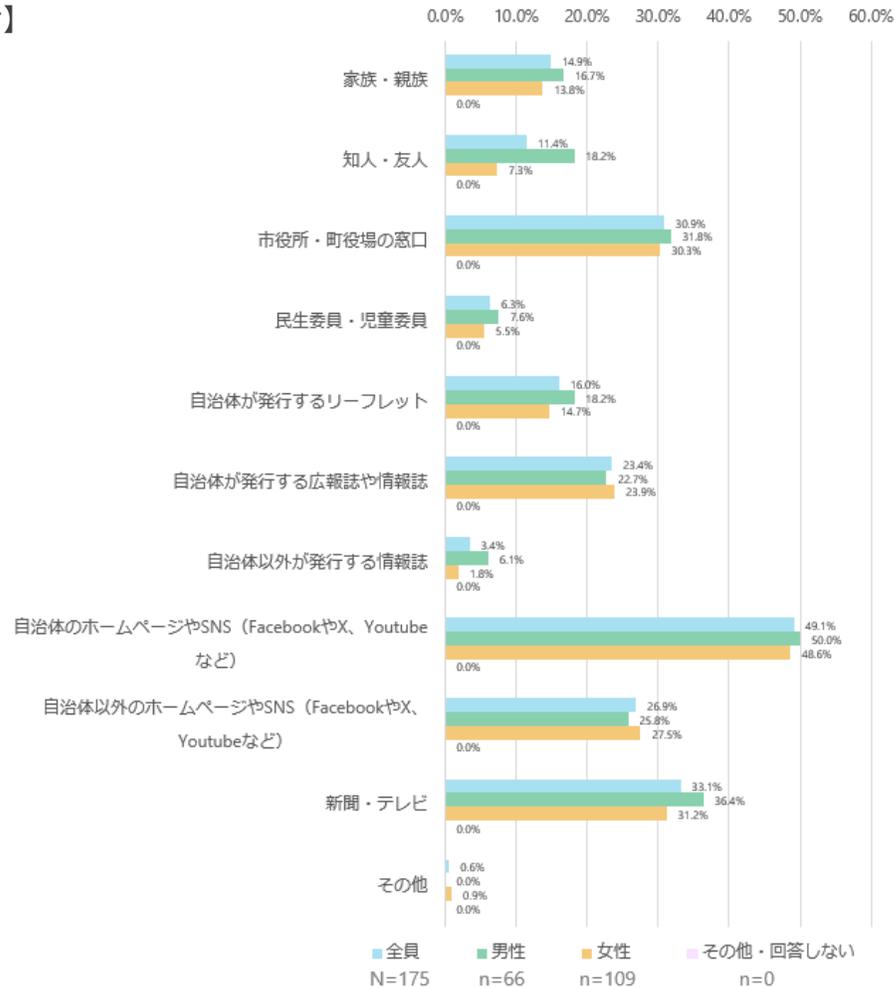
# 子育て支援サービスの情報発信

○ 自治体のホームページやSNSでの情報発信の充実を求める声大きい。

○ 妊娠・出産に満足していない方の理由について、「利用できるサービスについての情報不足」の回答が最も高い。

問 子育て支援サービスの情報は、どこからの情報発信をより充実してほしいと思いますか。  
(複数回答、3つまで)

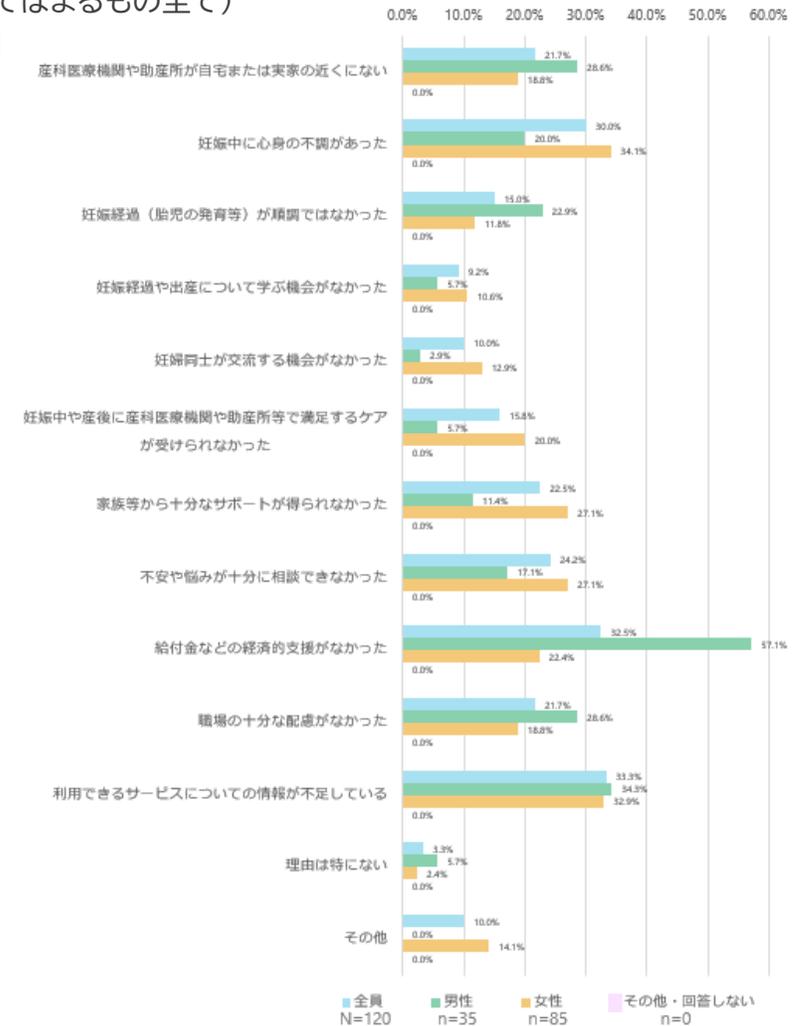
【若者向け】



※全体の約9割は妊娠・出産に「満足している」と回答

問 〔妊娠・出産にあたって満足していないと回答した方※〕満足していない理由  
(複数回答、当てはまるもの全て)

【保護者向け】

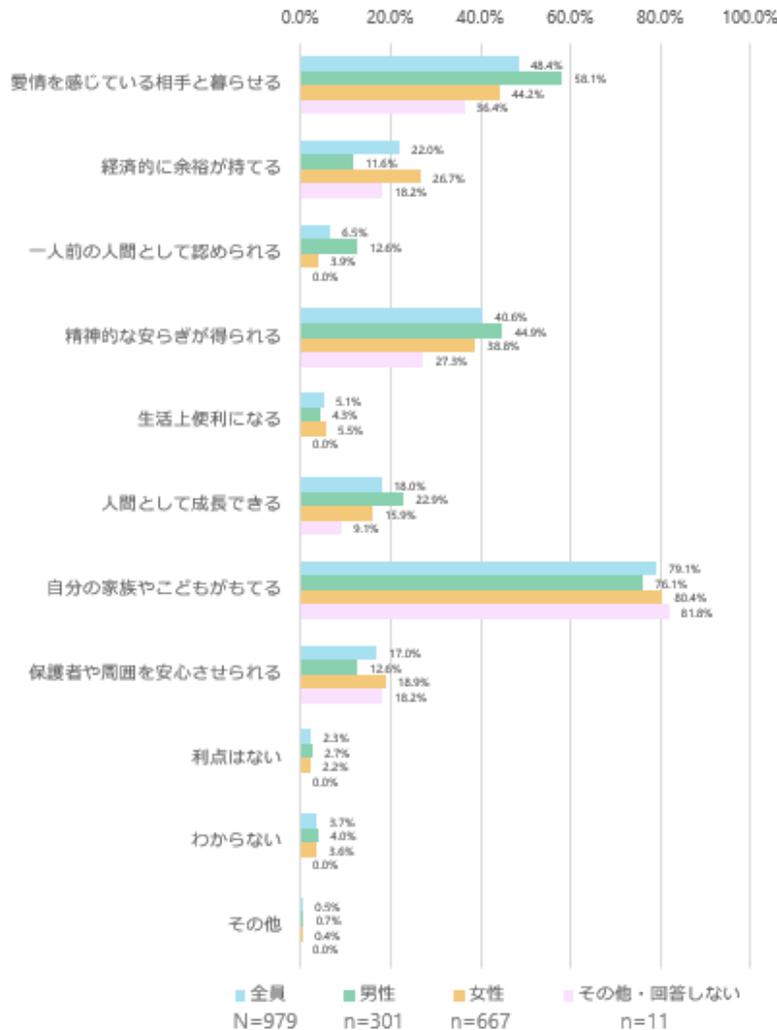


# 結婚・子育ての捉え方

- 約8割の保護者が、「家族や子どもがもてる」が結婚の利点だと感じている。
- 一方で、子育てにあたって「仕事と子育ての両立が難しい」と感じている保護者が最も多く、また、**経済的負担の側面よりも、「身体の疲れ」や「自分の自由時間がない」**ことを負担と感じている人が多い。

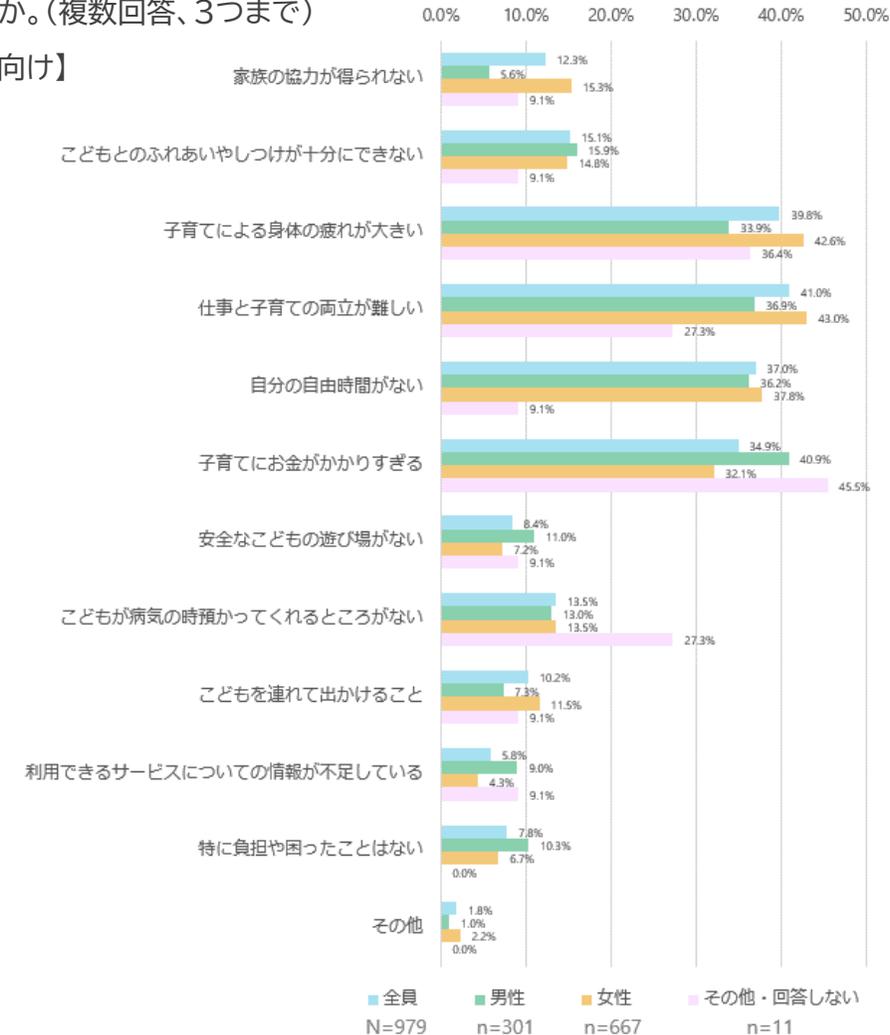
問 結婚することの利点は何だと思えますか。(複数回答、3つまで)

【保護者向け】



問 子どもを育てるにあたって、負担に思うことや困ったこと、不安に思うことなどはありますか。(複数回答、3つまで)

【保護者向け】

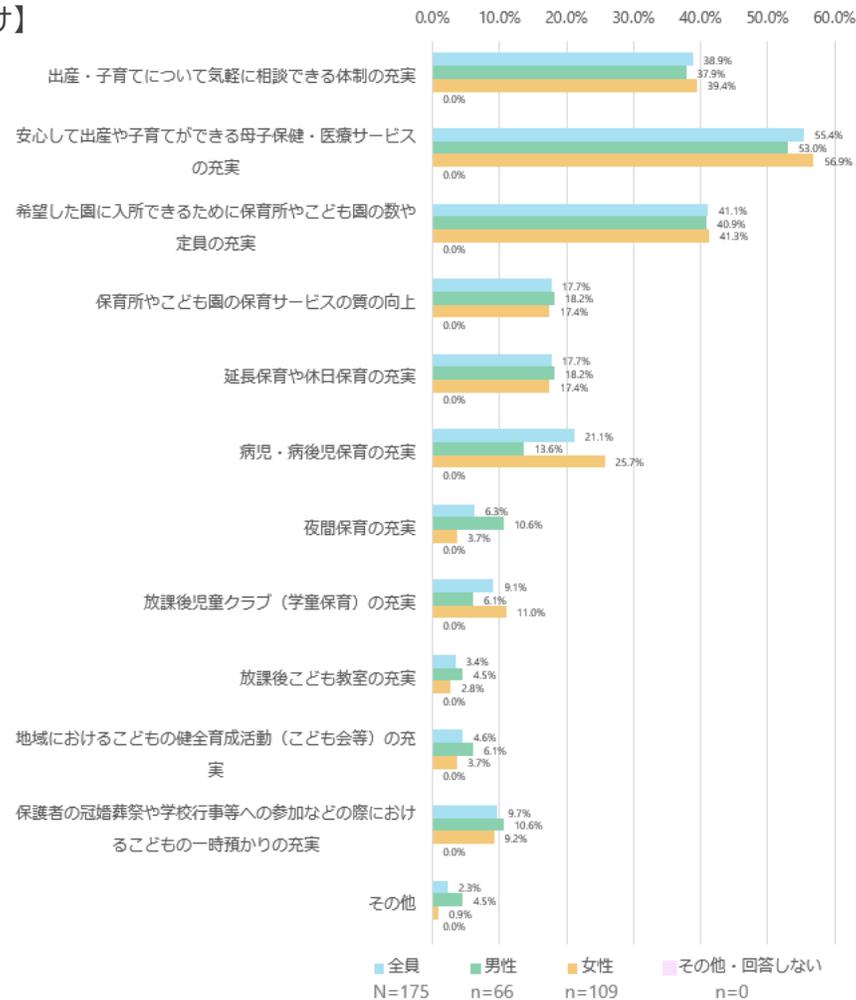


# 行政に求める子育て支援サービス

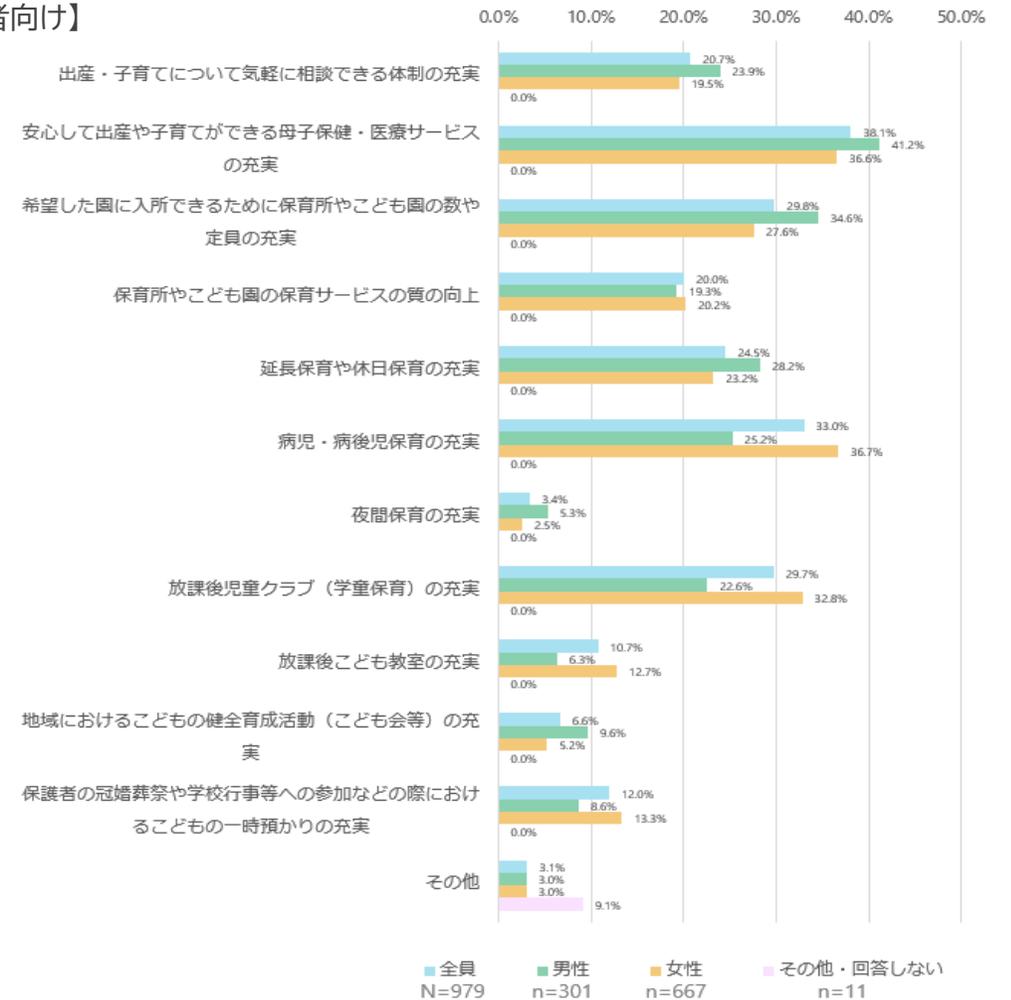
○ 行政に求める子育て支援サービスについて、若者・保護者とも「母子保健・医療サービスの充実」が最も高い。

問 健やかに子どもを生き育てるために、“子育て支援サービス分野”で行政にどのような施策をより充実してほしいと思いますか。(複数回答、3つまで)

【若者向け】



【保護者向け】

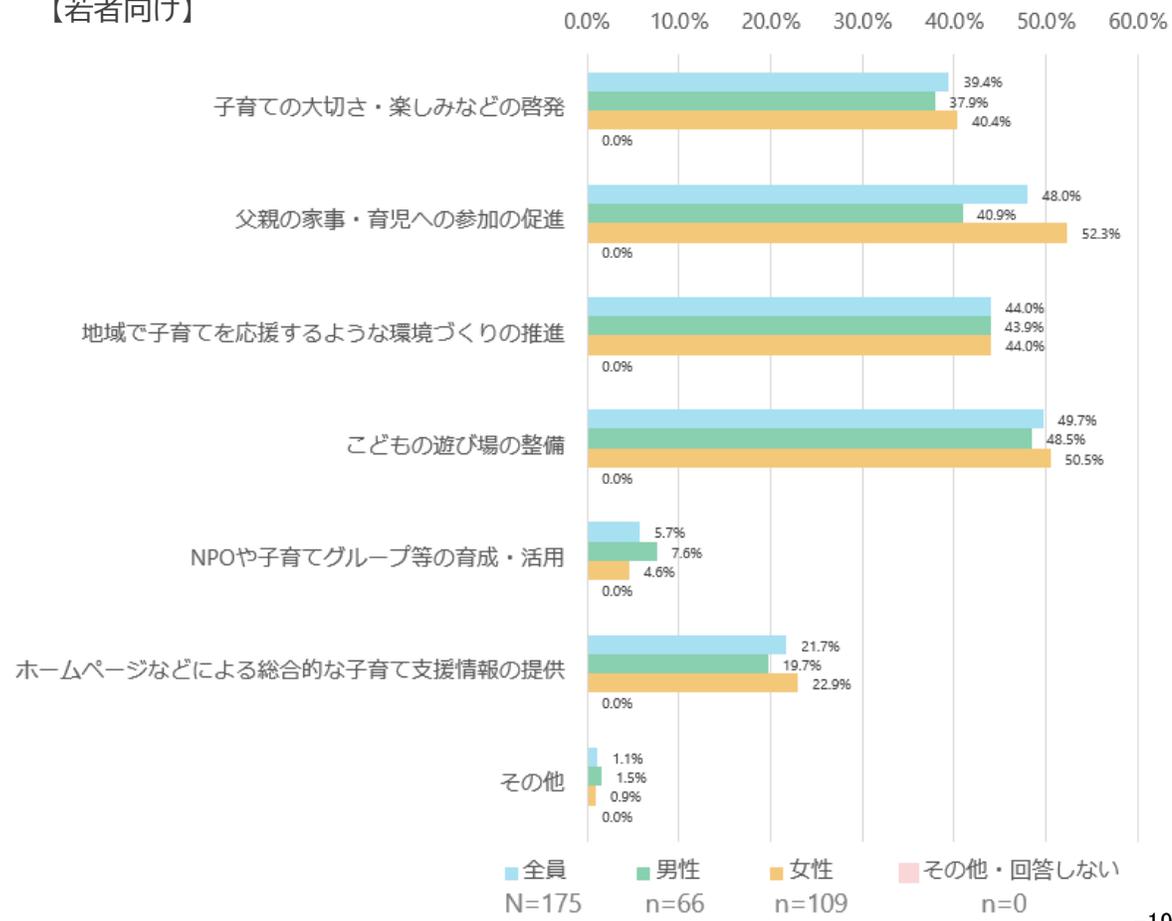


# 行政に求める子育て環境づくり

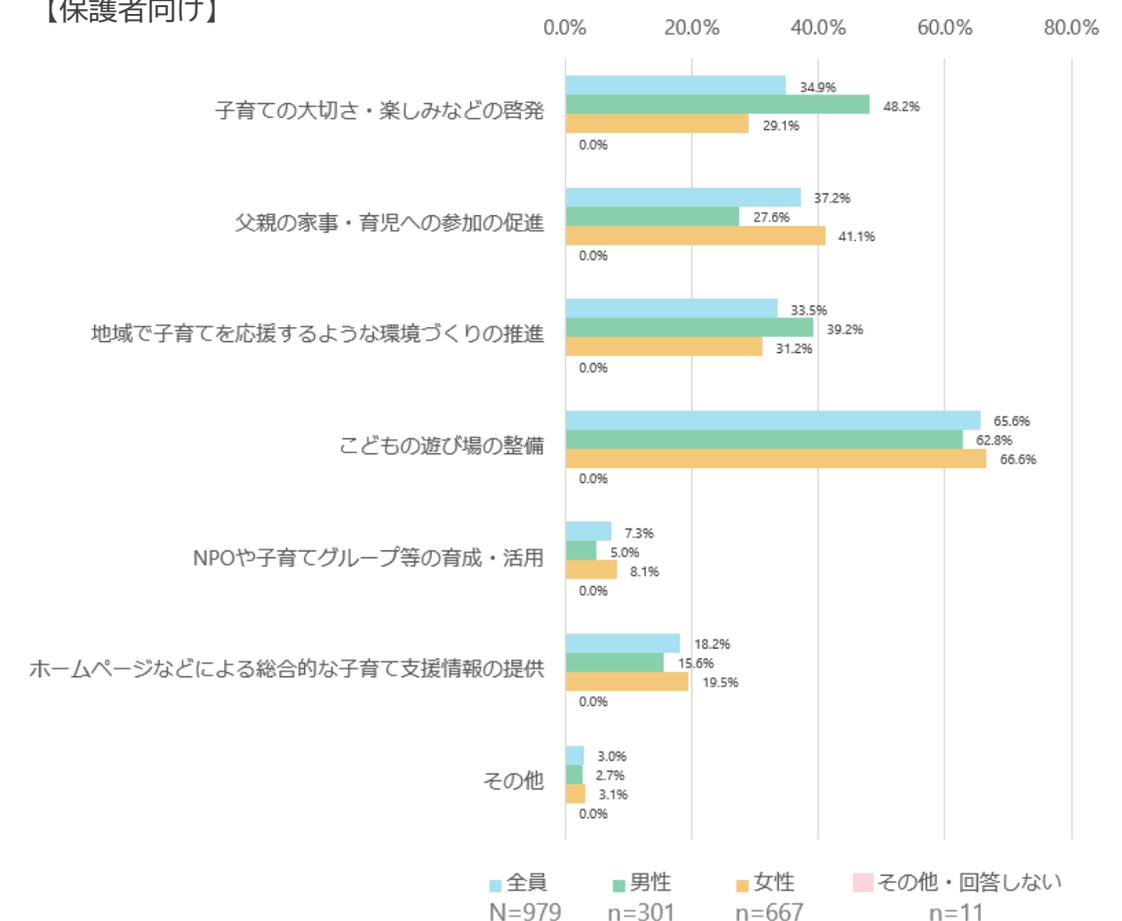
- 若者が行政に求める環境づくりとして、「こどもの遊び場」「父親の家事・育児参加」「地域全体で子育てを応援する環境づくり」「子育ての楽しみの啓発」などの回答がまんべんなく高い。
- 実際に子育て中の保護者からは、「こどもの遊び場整備」の充実を求める声が最も大きい。

問 健やかに子どもを生き育てるために、“子育て環境づくり分野”で行政にどのような施策をより充実してほしいと思いますか。(複数回答、3つまで)

【若者向け】



【保護者向け】



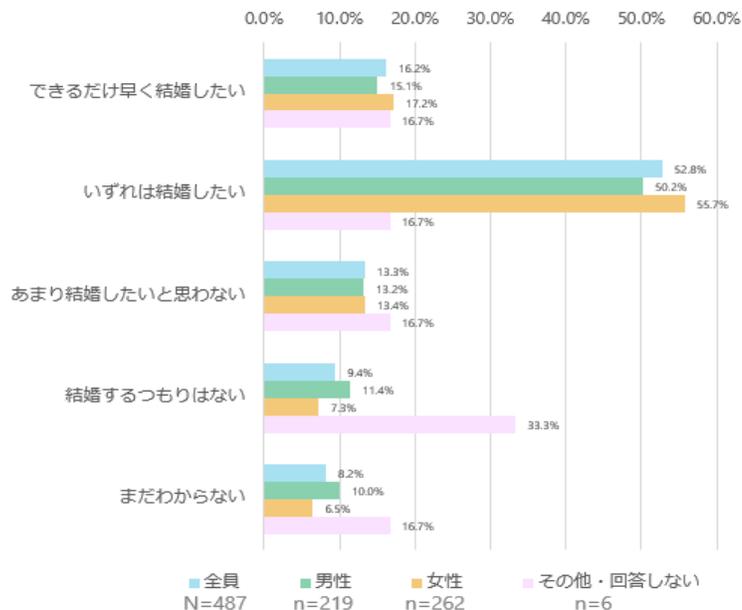
# 結婚への意識・行動

○ 20～40歳未満の未婚者のうち、結婚希望のある方は約7割

○ 「交際相手が欲しい」と回答した者のうち、約7割が「活動が億劫」「方法がわからない」「自信がない」などの理由で恋人探しをしていない。

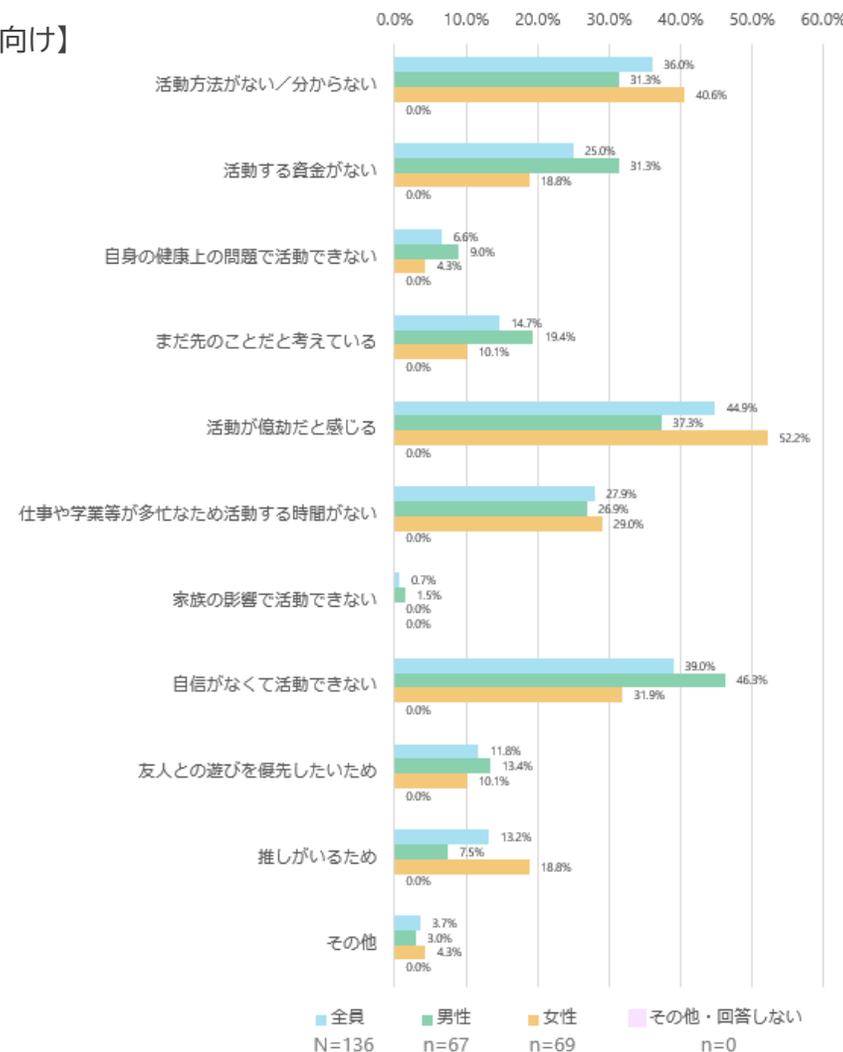
問 結婚についてどのようにお考えですか。

【未婚者向け】



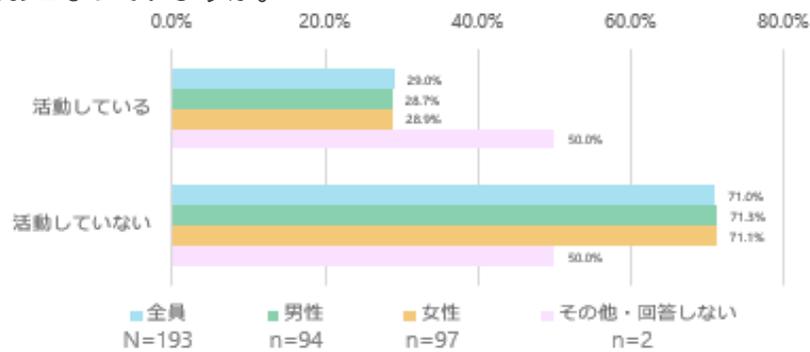
問 [前問で活動していないと回答した方]活動していない理由は何ですか。(複数回答、3つまで)

【未婚者向け】



問 [現在交際中ではないが、交際相手が欲しいと答えた方]現在、恋人さがしを意識した活動をおこなっていますか。

【未婚者向け】



## こども・若者の意見募集 とりまとめ結果

問： あなたやみんなにとって福井がよりよくなるため、  
「こんなことに困っている」「こんなことができると良いな」と思う意見や提案について

集計期間 R6.5.8 ~ 8.20

回答数

回答者	回答者数(人)	福井県のこと(件)	学校のこと(件)	家庭のこと(件)	社会のこと(件)	合計(件)
小学生	1,853	2,186	2,003	1,713	1,723	7,625
中学生	2,641	1,392	1,081	788	923	4,184
高校生	322	228	171	126	186	711
大学生以上	136	96	-	-	-	96
合計	4,952	3,902	3,255	2,627	2,832	<u>12,616</u>





# 意見の一部抜粋(福井県のこと)

## ○小学生

- ・横断する時に車が止まってくれないので、車が止まってほしい
- ・バスや電車をふやしてほしい
- ・やさしいまちになってほしい
- ・子どもたち(小学生含む)が室内で遊べる場所を増やしてほしい。冬場特に外で遊ぶことができない。
- ・新幹線小浜京都間の早期開通
- ・もっとイベントを作してほしい
- ・いじめがなくなしてほしい
- ・海にゴミが落ちている
- ・体育館にクーラーを設置してほしい
- ・私服登校がしたい
- ・イオンモールがほしい

## ○中学生

- ・電車の本数増やしてほしいです
- ・道路、歩道の整備をしてほしい
- ・もっと福井の特産品をアピールしてほしい
- ・お店が少ない
- ・ポイ捨てが多い
- ・観光地を増やしてほしい
- ・地域でいろんなことをする
- ・都会にしてほしい
- ・他校との交流
- ・もっと自然を大切に
- ・遊べる場所が欲しい
- ・福井のいいところを他の県の人に知ってもらおう
- ・若者が休憩や娯楽に利用できる場所を作りたい
- ・障害などを持っていても関係なく過ごしやすい街になるといい

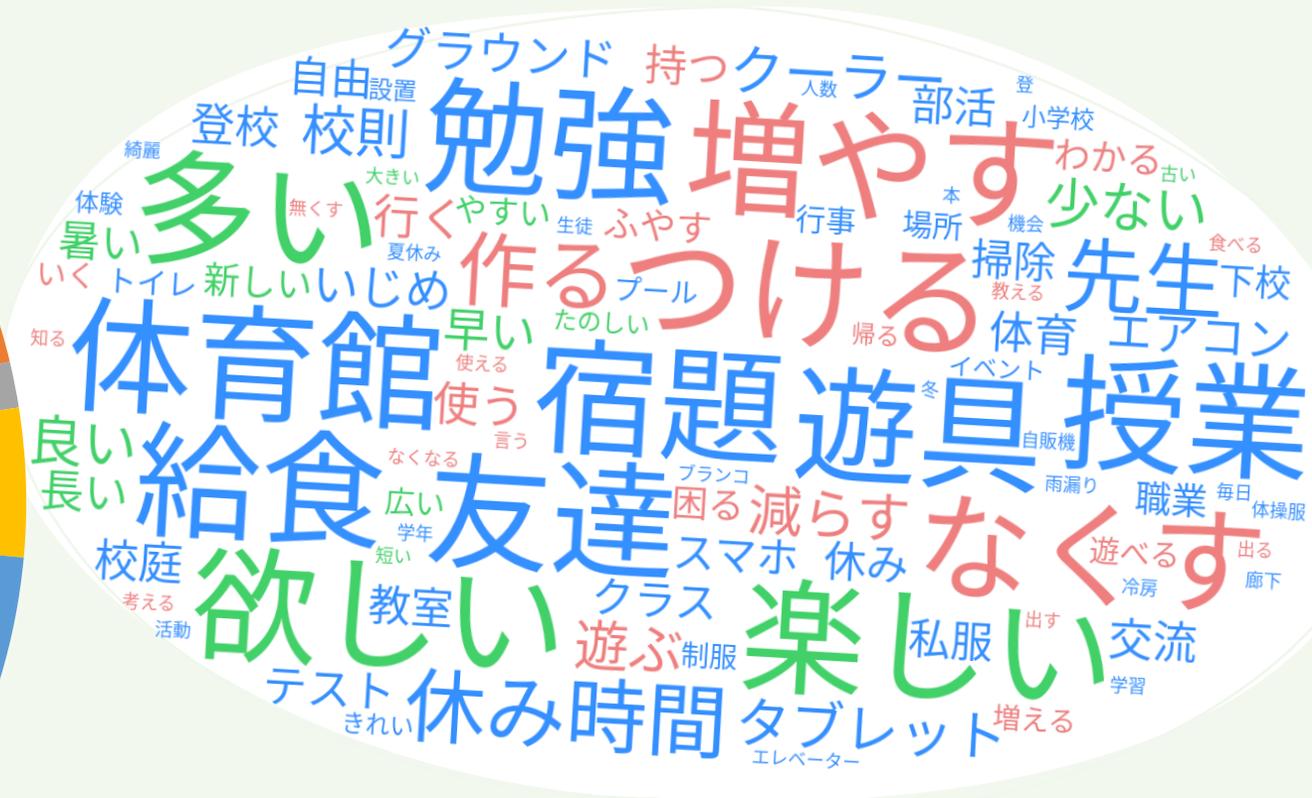
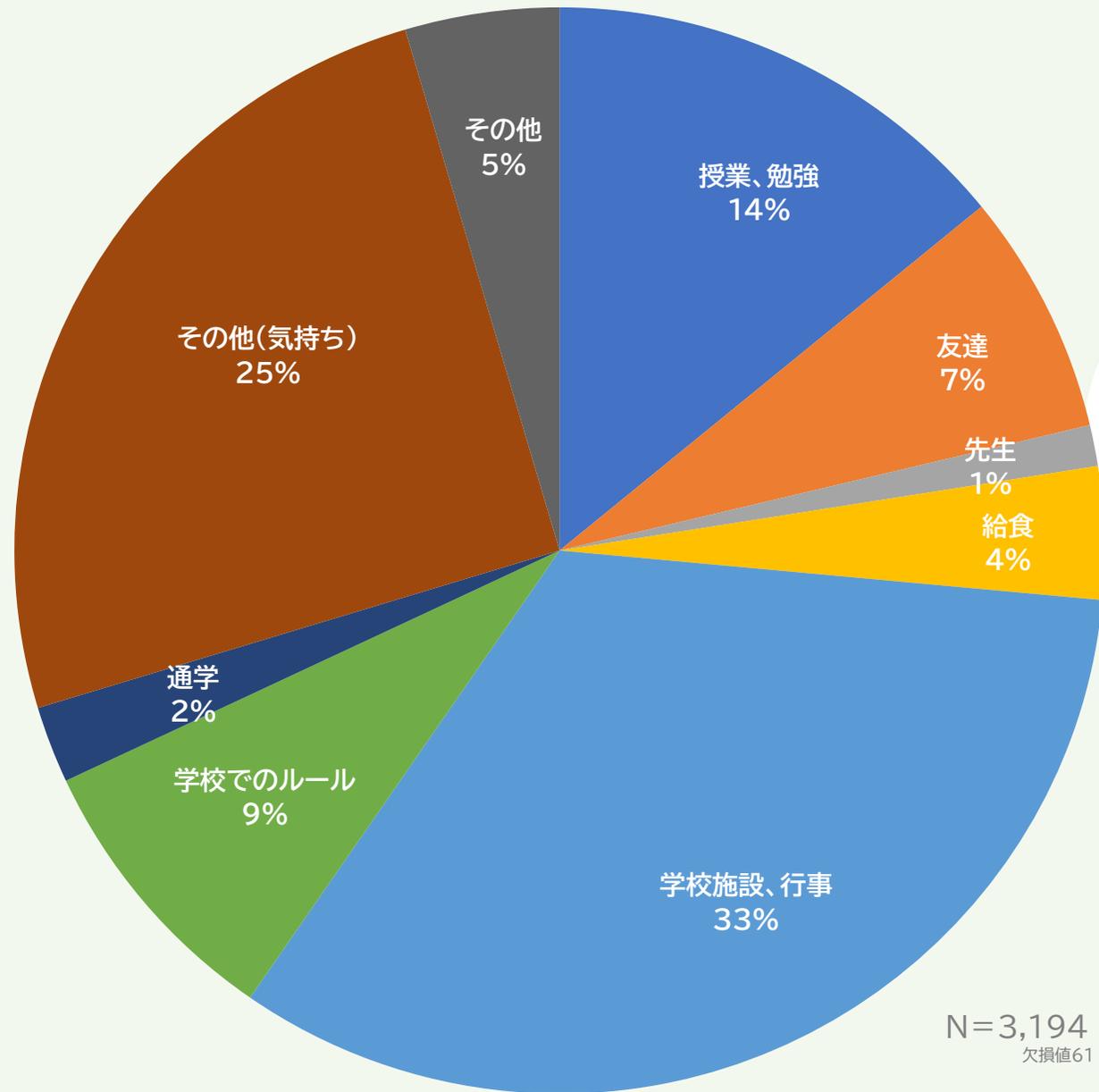
## ○高校生

- ・交通の便を良くして欲しい
- ・勉強できる場所を増やしてほしい
- ・働き場所を増やしてほしい
- ・恐竜以外の魅力を作る
- ・医療費の無償化を大学生まで延長
- ・若者の遊び場がほしい
- ・熊や猿、猪による被害の対策をもっとしてほしい
- ・市民イベントをもっと増やしてほしい
- ・若者の新たなチャレンジを支援してほしい
- ・こどものスポーツ人口を増やす運動を勧めてほしい
- ・福井県の良いところを色々な人に知ってもらうために、どんなPRをしているのか県民にも発信してほしい

## ○若者

- ・一人暮らし大学生の支援をしてほしい
- ・ショッピングモールをつかってほしい
- ・最低賃金をあげる
- ・福井県からの学生助成金を組んでほしい
- ・こどもが遊べる施設が少ないと思う
- ・交通機関が便利になること(便数、時間帯、値段など)
- ・若者が気軽に参加できるコミュニケーションの場やイベント
- ・病児保育や一時預かりといった子育て支援が増えると非常に有難い
- ・結婚出産子育て、それだけが人の幸せではないことを伝えていくことが必要なのでは
- ・こどもも若者も抱え込んでいる悩みや話せなくて辛くなっていく人もいると思うので打ち明けられるような施設

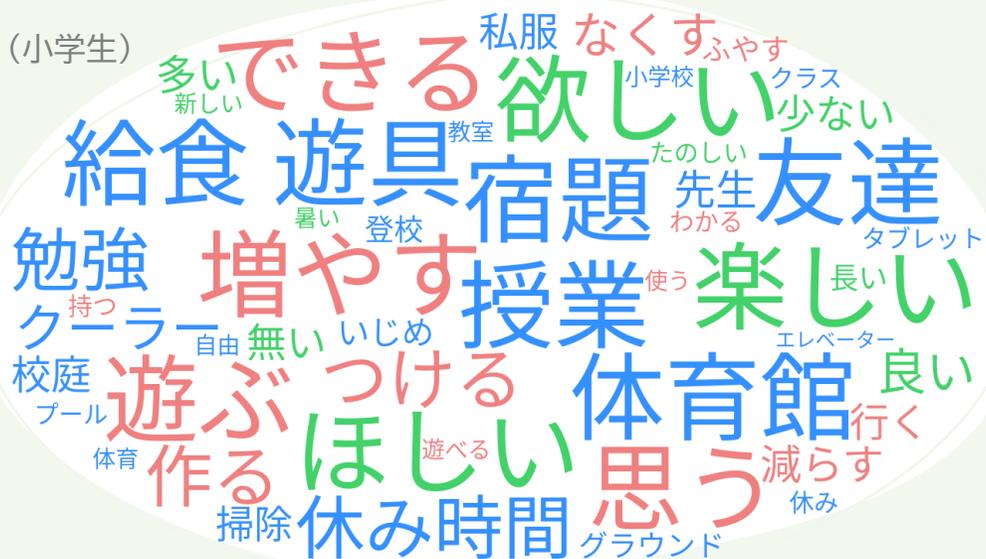
# 【内訳】どういった意見があったか（学校のこと）



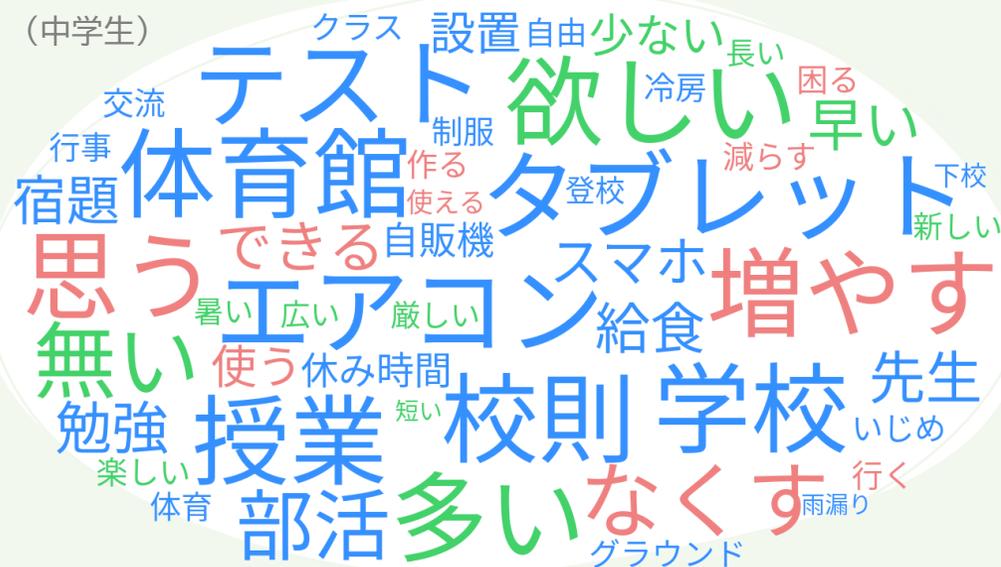
テキストマイニングによる集計結果(出現頻度順)

# 【年代別】どういった意見があったか(学校のこと)

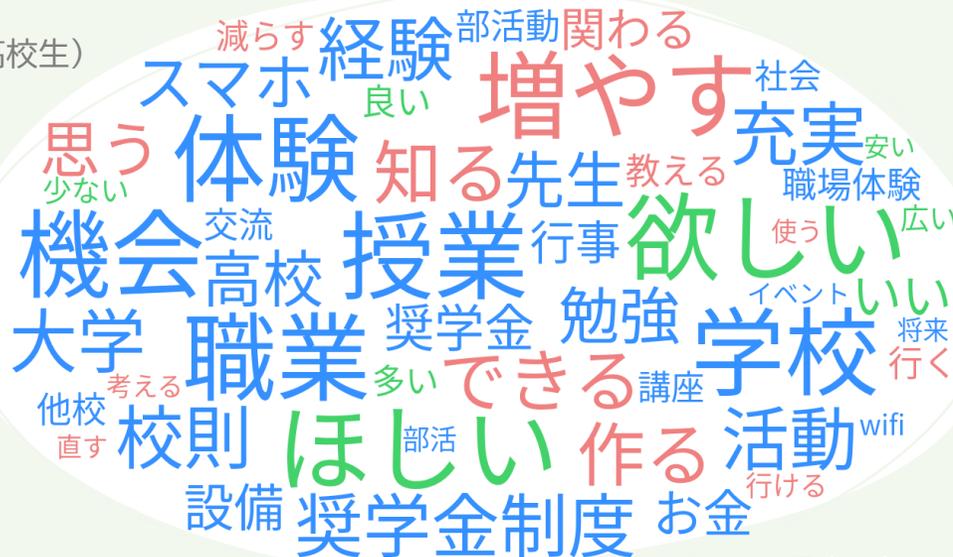
(小学生)



(中学生)



(高校生)



# 意見の一部抜粋(学校のこと)

## ○小学生

- ・福井県に関する宿題をもっと作ってほしい
- ・楽しい学校生活ができるといいです
- ・校則を緩めてほしい
- ・家から学校まで3キロあります。歩くのがとても大変です。暑い日と雪の日だけでも、バスがあるとうれしいです
- ・給食にあげぱんかカレーを月に一回出してほしい
- ・体育館が暑すぎる
- ・いじめとかが起きない学校
- ・宿題をタブレットでやるようにする

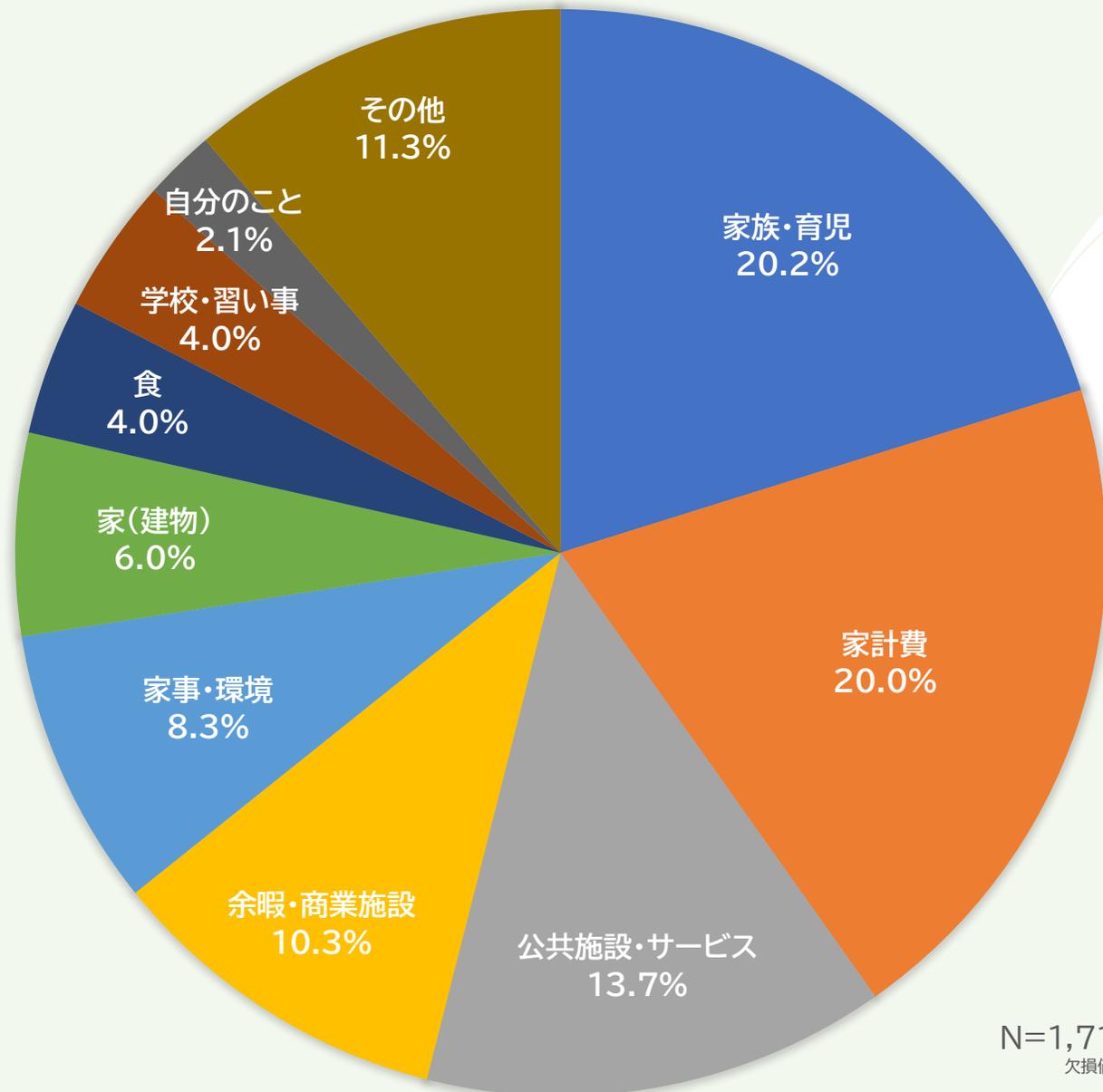
## ○中学生

- ・体育館にエアコンをつけてほしい
- ・給食を美味しくしてほしい
- ・行事を増やしてほしい
- ・スマホの持ち込みをありにして欲しい(休み時間のみなどのルールを設けて)
- ・部活動の終わる時間をどの部活も一緒の時間に必ず終わるようにしてほしい
- ・登下校のときに、名札を見て知らない人に名前を呼ばれることがある。名札を無くしてほしいと言わないが、少し嫌だなと思った
- ・みんなが居心地の良いと思える学校にするために、カウンセラーの方や先生に相談できる時間を増やす
- ・給食の食品ロスをなくしてほしい
- ・地域と連携して大きなことをやりたい
- ・授業でタブレットを使う機会を増やしてほしい

## ○高校生

- ・もっと地域や地元と関わりたい
- ・奨学金制度を充実させて欲しい
- ・高校と大学の結びつきを強めてほしい
- ・職業経験の授業が小中高を通して少ない。職業体験をして、自分に合う職業を知りたい
- ・世の中には障がいを抱えている人もいます。それをこどもは教えて貰わないと理解出来ないと思います。学校で障がいを抱えている人との関わり方を教えるのもいいのではと思いました。
- ・部活動での交通面のみお金の負担を少ししていただけると良いです
- ・容姿、スマホの利用制限の校則を見直してほしい
- ・大学でかかる費用を一部行政に負担してほしい

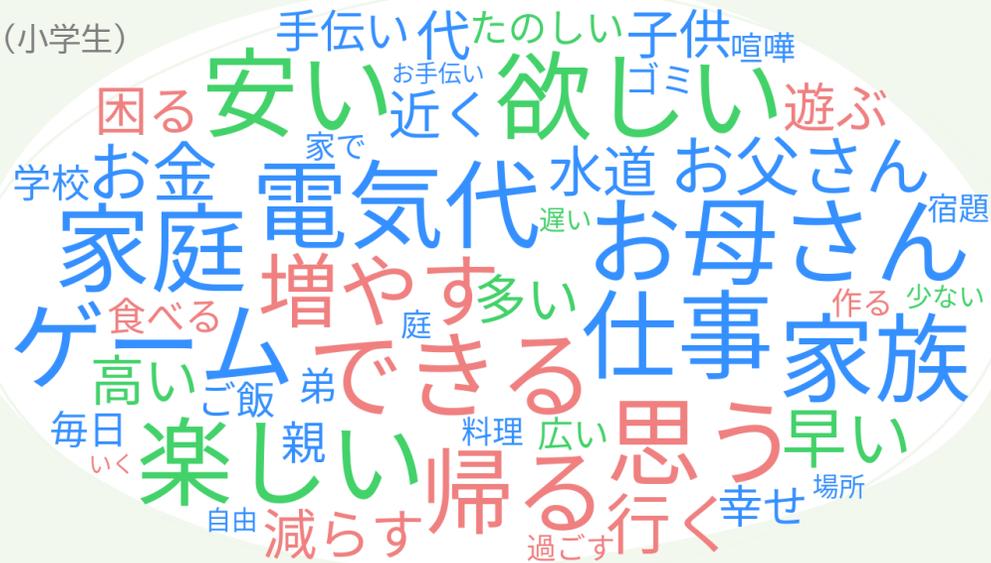
# 【内訳】どういった意見があったか (家庭のこと)



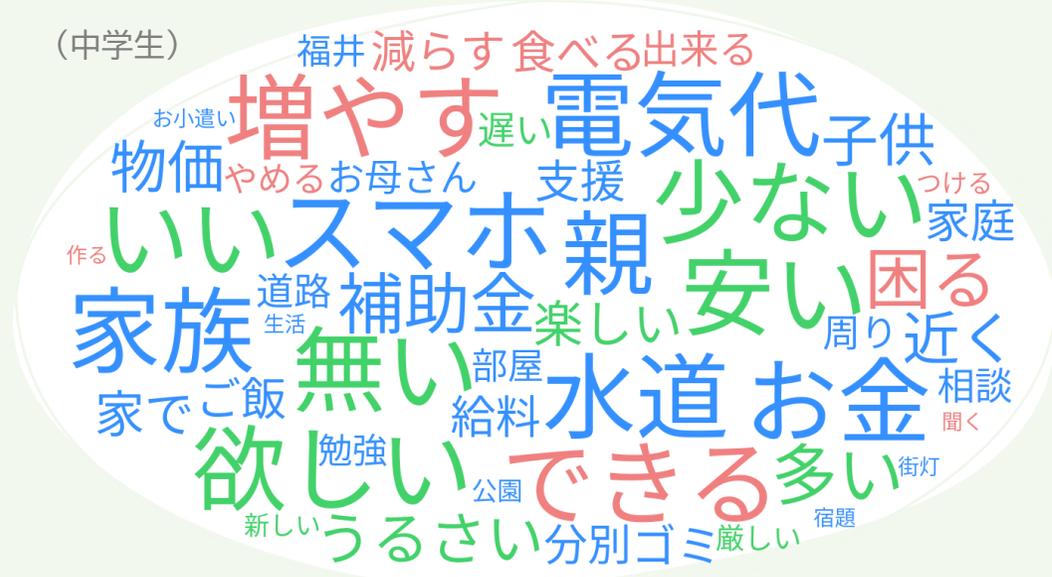
テキストマイニングによる集計結果(出現頻度順)

# 【年代別】どういった意見があったか(家庭のこと)

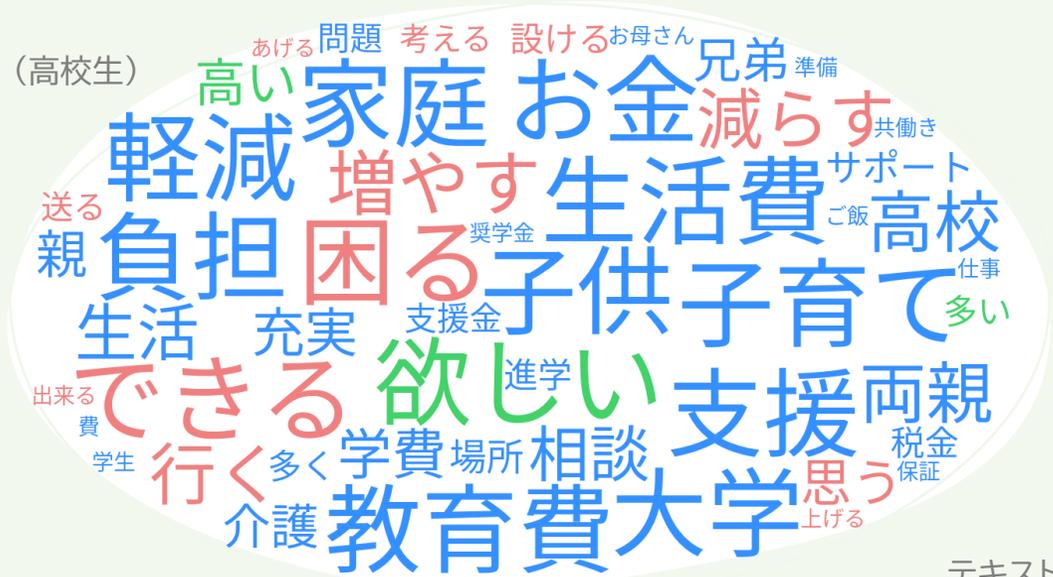
(小学生)



(中学生)



(高校生)



テキストマイニングによる集計結果(出現頻度順)

# 意見の一部抜粋(家庭のこと)

## ○小学生

- ・家族でいる時間が増えてほしい
- ・お店が近くにあるといい
- ・習い事に行くのに、親が送り迎えできない時があり、行きたくても行けない日がある
- ・お父さんが忙しそうなので、もっと仕事が早く終わるようにしてほしいです。お母さんが土日一人でも家のことをしているので、もっとみんなでお手伝いしたり、助けたりできるような活動とか、お手伝い表とかあるといいです
- ・放課後、友達と自由に遊べません。ママやばあばに車で送ってもらわないと、校庭や友達の家が遠いので自分では行けません。ばあばが家にいるから児童クラブには入れないらしいです。友達の家は危ないから1人で行ってはダメと言われているので、ママが仕事で送れないときは家でスイッチやユーチューブをみています。つまらないので、みんなが児童クラブにいけるようにしてほしいです。
- ・こどもがいる家庭への支援が増えるといい
- ・もっと自分の時間を増やしたい
- ・スマホを使うようになってから家族とあんまり遊ばなくなってきた

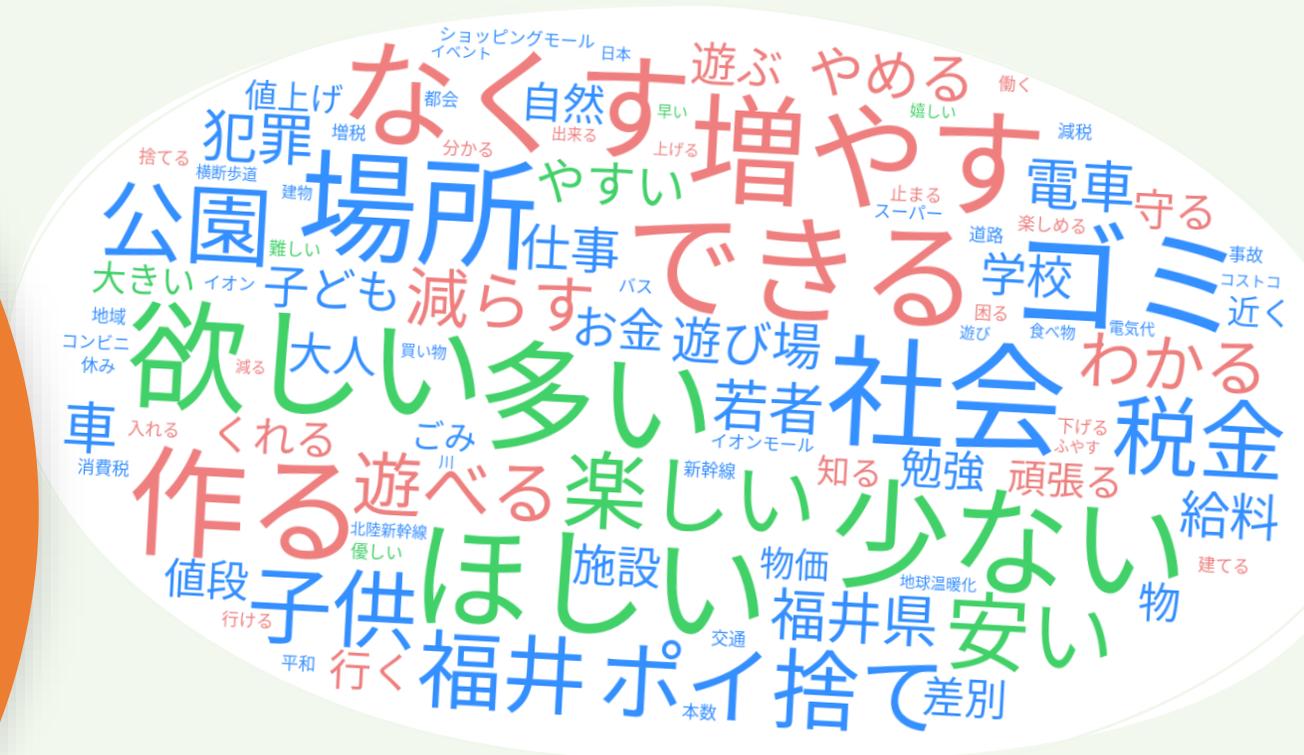
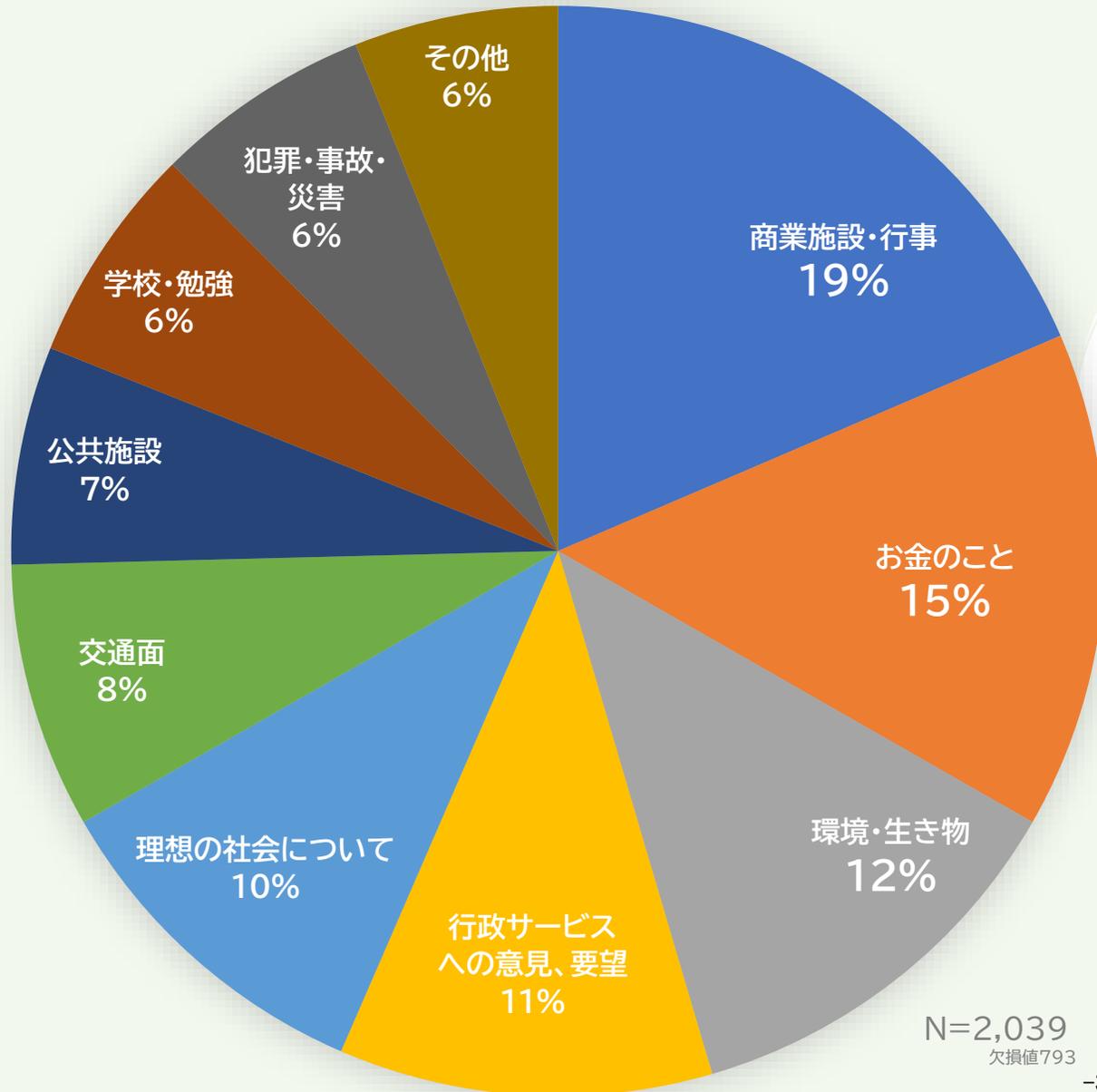
## ○中学生

- ・親の帰りが遅いときがある
- ・子供を一人にさせない対策をする
- ・もっと気軽に相談できるものが欲しい
- ・貧困がなくみんなご飯を食べれる
- ・知ってほしくはないけれど気づいてほしい
- ・ゴミの分別を心がける
- ・家族で参加できるイベントを増やしてほしい
- ・電気代や水道代を安くする
- ・自分の部屋が欲しい
- ・勉強時間や宿題をする時間が少ない
- ・家族とかで遊びに行けるところを増やす
- ・スマホが欲しい

## ○高校生

- ・両親の子育ての負担の軽減
- ・大学の教育費
- ・高齢者の生活を支援してほしい
- ・お母さんのご飯の準備を手伝ってほしい
- ・こどもが多い家庭の支援、環境づくり
- ・生活に苦しい人への支援を充実させてほしい
- ・家の雑音で集中できない

# 【内訳】どういった意見があったか (社会のこと)



テキストマイニングによる集計結果(出現頻度順)



# 意見の一部抜粋(社会のこと)

## ○小学生

- ・小学生の人とかで町を盛り上げたらいいと思う
- ・選挙に行けない人がいたらリモートでやったほうがいいと思う
- ・嶺北と嶺南の観光地の往来費用の補助が欲しい
- ・障害者に、もっと優しい社会になってほしい
- ・もっと若者の話を聞いてほしい
- ・思いやり週間をつくる
- ・交通事故を減らしてほしい

## ○中学生

- ・福井県民全員が幸せに暮らすために、ユニバーサルデザインを用いた施設や設備を増やす
- ・耳が聞こえにくい人のためにどんな場所でも指差しボードがあるといいとおもう
- ・バス、電車の本数が少ない
- ・こどもの気持ちになって考えたり人の気持ちをちゃんと聞いたり譲り合いをしてほしい
- ・道や公園等にゴミが落ちており景観が悪い
- ・ジェンダーレスの考えを普及して欲しい
- ・絵や芸術、イラストなどを学ぶ専門大学があると嬉しい。上京せず福井で働く人も増えると思う。  
芸術的で自然豊かな場所になると思う

## ○高校生

- ・高校生が小学生などに勉強を教えてあげるような機会がほしい
- ・ボール遊びができるように公園に柵を作る
- ・少子高齢化が進んできているのでこどもの遊ぶ場所等ではなくこどもを育てたいと思うような制度を充実させてほしい  
(保育園・幼稚園の増設、こどもがいる家庭への給付金、こどもを育てやすいまちづくり(こどもの面倒を地域全体で見守る)等)
- ・こどもや若者の居場所を増やして欲しい
- ・学生が公共交通機関を負担なく使えるように、学生割を設けてほしい。
- ・高校生でも楽しめる、大きなショッピングモールを作してほしい
- ・私がそう思うだけかもしれないが、福井のいいところをホントに知らないし、何なら福井は何もないと思っている。特に嶺北。  
お金をかけていろんなところを作るのはいいけど、まずは、他県の人にも認めてくれるような一つ一つの市町のもともとの良さを  
知ってPRするべき。

# 主な意見と今後の方向性

## こども・若者の主な意見

## 今後の方向性(計画骨子案への反映ポイント)

もっと若者の話を聞いてほしい(小)

こども・若者の意見聴取を引き続き推進

障がいなどを持っていても関係なく過ごしやすい街になるとよい(中)  
障がい者に、もっと優しい社会になってほしい(小)

介護、障がい、子育てなどの支援機関が連携した協働支援体制を構築

こどもも若者も抱え込んでいる悩みや話せなくて辛くなっている人もいると思うので、打ち明けられるような場所がほしい(若)  
こどもや若者の居場所を増やしてほしい(高)

生きづらさを抱えたときに集える居場所拠点を確保

家庭でも学校でもない安心できる多様な居場所づくりを支援

ばあばが家にいるから児童クラブに入れならしい。みんなが児童クラブにいけるようにしてほしい(小)

放課後児童クラブの人材確保や事業運営を支援し、こどもたちの安心・安全な活動環境を確保

福井県に関する宿題をもっと作ってほしい(小)  
授業でタブレットを使う機会を増やしてほしい(中)

自分の将来などを考える機会を提供するライフデザイン教育を推進

職業経験の授業が小中高を通して少ないのでどんな仕事があるか分からない(高)

地域の特性を活かした体験学習や職業教育を充実

若者の新たなチャレンジを支援してほしい(高)

若い世代が将来への夢や希望を見いだす活動を応援

習い事に行くのに、親が送り迎えできないときがあり、行きたくても行けない日がある(小)

様々な子育てのニーズをサポートする「ふく育タクシー」の利用支援を継続

両親の子育ての負担を軽減してほしい(高)

保育料無償化等による日本一の“複育”応援の継続

市民イベントをもっと増やしてほしい(高)

市民主体の子育て応援イベントをつなぐ情報発信により応援

お父さんが忙しそうなので、もっと仕事が早く終わるようにしてほしい(小)

男性育休の促進や時短勤務等による両立支援を実施

こどもたちが室内で遊べる場所を増やしてほしい。特に冬場、外で遊ぶことができない(小)

天候にかかわらずこどもたちがいつでも楽しめる全天候型遊び場の整備を推進

# ヤングケアラーに関する調査結果(小学生)

## 【生活状況調査の概要】

■調査時期:令和6年7月  
■調査対象:小学5年生2,000人

■調査方法:郵送による調査票配布、オンライン回答方式  
■回答数/回答率:796人/39.8%

- ① 家族の中に**あなたがお世話をしている人**はいますか。  
(「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをする事。)

いる ⇒ **65人**(8.17%)

お世話を必要としている人の内訳…

母親:23人 父親:4人 祖母:7人  
きょうだい:24人 その他(家族全員):1人 その他(ペット等):2人

- ② 「いる」と回答した方にお聞きします。**お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。**

ある ⇒ **12人**(1.51%)

学校に行きたくても行けない :2人  
どうしても学校を遅刻・早退してしまう :1人  
宿題をする時間や勉強する時間が取れない :1人  
睡眠が十分に取れない :2人  
友人と遊ぶことができない :5人  
進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した :1人  
自分の時間が取れない :4人  
特に困っていない : 46人

延べ16人(実人数12人)

- ③ あなた自身は**ヤングケアラーにあてはまる**と思いますか。

(ヤングケアラーとは、「本来大人がするような家事や家族の世話などを子どもがやらざるを得ないため、宿題などの勉強をする時間がとれない、放課後友達と遊べない、といったやりたいことができないような子ども」のことをいいます。)

あてはまる ⇒ **4人**(0.50%)

# ヤングケアラーに関する調査結果(中学生)

## 【生活状況調査の概要】

■調査時期:令和6年7月

■調査方法:郵送による調査票配布、オンライン回答方式

■調査対象:中学2年生2,000人

■回答数/回答率:761人/38.1%

### ① 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。

(「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをする事。)

いる ⇒ **53人**(6.96%)

※R3調査時:4.52%

お世話を必要としている人の内訳…

母親:36人 父親:1人 きょうだい:13人 その他:3人

### ② 「いる」と回答した方にお聞きします。お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。

ある ⇒ **8人**(1.05%)

学校に行きたくても行けない :1人

どうしても学校を遅刻・早退してしまう :1人

宿題をする時間や勉強する時間が取れない :3人

睡眠が十分に取れない :6人

友人と遊ぶことができない :5人

自分の時間が取れない : 4人

特に困っていない :41人

**延べ20人(実人数8人)**

### ③ あなた自身はヤングケアラーにあてはまると思いますか。

(ヤングケアラーとは、「本来大人がするような家事や家族の世話などを子どもがやらざるを得ないため、宿題などの勉強をする時間がとれない、放課後友達と遊べない、といったやりたいことができないような子ども」のことをいいます。)

あてはまる ⇒ **5人**(0.66%)

※R3調査時:0.80%

## 「ふく育県」のイメージ定着に向けた情報発信、機運醸成について

### 1. メインコンセプト・メインビジュアル



#### ①コンセプトの考え方

- ・ 育児は経験したことの無い「冒険」である として子育てのワクワク感を伝える。
- ・ 「育児幸せ王国 心く育県」をコンセプトに、福井の子育てをしていく上での魅力を、県民みんなで発掘（＝再発見）し、日本で最も子育てしやすい環境であることをイメージづける旗印

#### ②メインビジュアル

- ・ 育児に幸せをもたらす王国（宝島）としてワクワク感を表現。恐竜やカニなど福井県のモチーフを描く。
- ・ WEBサイトやCM、ハンドブックの表紙などで活用予定。

## 2. 定時退社・育児休業取得促進キャンペーン（かえるプロジェクト）

### ①目的

仕事を優先させがちなこれまでの福井の働き方を新しく「変える」ことで、これからの福井の子育て環境を大きく「変える」ことを目指し、子育てが楽しくなるようなワークライフバランスを実現するため、定時退社や育児休業が取得しやすい職場環境の整備を促進

### ②主な内容

- ・ 県内企業に定時退社を促進するための三角POPを送付
- ・ 福井放送「おじゃまっテレ ワイド&ニュース」にて特集コーナーを放送（11/28予定）
- ・ プロジェクトのイメージキャラクターである「カエルの上司」による定時退社や育児休業の取得を促すCMを放送
- ・ 福井新聞にて男性の育児休業取得についての広告掲出（11/19）



定時退社促進のための三角POP



テレビCMの一場面

**男性育休、取得してますか？**

福井県は、全国トップレベルの実績制度で男性育児休業取得率が増え、男性の育児取得率は2年連続で全国平均を超え、過去最高の31.4%。子育てが楽しくなるようなワークライフバランスの実現を目指し、子どもが生まれながら積極的に育休を取得しましょう！

**男性育休の取得率推移**

年	2019	2020	2021	2022	2023
取得率 (%)	4.8	10.2	17.2	27.1	31.4

**企業への奨励金**

- 1. 育休応援奨励金 10万円 (1社あたり)：通常15日以上育休を取得
- 2. 育児スタート奨励金 30万円 (1社あたり)：企業として初めて連続3年以上の育休を取得した社員
- 3. 育児取得率の向上奨励金 30万円 (1社あたり)：育児取得率が増加した社員
- 4. 育児取得への参画奨励金 5万円 (1社あたり)：育児取得率が増加した社員
- 5. 育児取得への参画奨励金 5万円 (1社あたり)：育児取得率が増加した社員

**従業員への企業賞**

従業員が育休を取得した社員に、賞状や表彰状を贈ります。

**企業にも家族にもいいこと！**

**あなたも男性育休を！**

男性取得者の満足度 **81%**、取得者の妻の満足度 **91%**

**会社の声**

- 若手の確保や離職防止につながった
- 従業員が育休を取得する機会が増えた
- 業務の負担を軽減するにつれて、働き方改革につながった
- 育児休業を社内にすすめやすくなった
- 若い社員の責任感やモチベーションが向上した

**夫婦の声**

- 毎日妻から感謝されてうれしかった
- 育児の大変さも妻と2人で共有できた
- 初めての育児も2人でできて、家族3人の生活のスタートが切れた
- 子どもの成長を一緒に喜ぶことができた
- 会社への信頼が増し、仕事へのやる気アップした

福井県健康福祉部 子育て課 | 0776-20-0289 | kaeru@omr.or.jp

福井新聞15段広告